ライオン誌（毎月20日発行）第52巻第8号 2010年1月20日発行 第3種郵便物認可

LION

IN JAPAN Official publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP FEBRUARY 2010 2

THEME 海外クラブのアクティビティ

世界205の国と地域で恵まれない人々のために奉仕するライオンズ。
海外ではどのようなアクティビティを行っているのだろう？

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・**ライオンズクラブ入門**
改訂版
第3版第1刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・**クラブ運営の基礎知識**
第3版第1刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・**リーダーシップを養う**
第1版第3刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ ………………………　部
●ライオニズムよ永遠に ……………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 ………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
February 2010, Vol.52 No.8

We Serve CONTENTS

2010年2月号　表紙
沖縄県久米島
ザトウクジラ
写真／川本剛志
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

成功のために目に触れ耳に入るPRを

私は事業を営んだ経験から知っていることがあります。どんな仕事においても良い時があれば悪い時もあるということを働く人たちは理解しており、コミュニケーションが上手く取れている時には現状を正しく認識し、会社にとって良い方法を構築出来るということです。

同様に私は、良いコミュニケーションは結婚生活にも欠かせないものであることを知っています。そして私はライオンとして、特にそのリーダーとして、クラブ内の活気に満ちたコミュニケーションが事業を成功に導き、調和の取れたクラブを作るということを知っているのです。

上手にコミュニケーションを取ってメンバーの力をまとめることが出来れば、事業はぐっとやりやすくなります。メンバー同士の絆の強化、地域社会での認知度の向上、会員増強にもつながります。

誰でもコミュニケーションのスペシャリストになることが出来ます。特別な肩書きも社会的背景も必要ありません。あなたのクラブの会報に情報を提供し、また会報を必ず読むようにします。『ライオン』誌を読み、これをご近所の方やお友達にあげたり、診療所や図書館に寄贈するのも良いでしょう。ライオンズクラブ国際協会の公式ウェブサイトで、世界のライオンズの最新情報を見ます。あなたのクラブの活動について教会の会報で紹介したり、同窓会の会報でライオンズのつながりを誇りに思っていることを述べたり、お隣さんとの塀越しのおしゃべりや仕事でトレーニングを実施するような時でも、ライオンズについて話題にしたり印象づけたりすることに気を配るのです。

1月の最後の2週間は「ライオンズ・イン・サイト」にぜひご参加ください。ライオンズの活動は年中人目に触れるようすべきですが、この2週間はより積極的にアピールします。難しいことはありません。平和ポスター・コンテストの参加作品を展示したり、ライオンズ・クルー・アット・ワーク（参加型奉仕事業）やライオンズ緑化チームの事業計画を立てたり、ダンスや音楽プログラムといった文化的イベントや、国際フード・フェアーなどの企画、緑内障教育月間に視力検査を実施したり、眼鏡や補聴器を収集するのも良いでしょう。

クラブの活動が人の目に触れ耳に入るようにするために、決められたアプローチの方法はありません。文化的、教育的背景はさまざまで、多様なコミュニケーション・スタイルがあるからです。しかし皆さん、PRする時には大きな声を上げ、ライオンズ·ピンやベストを身につけ、バナーを掲げてください。私たちのローアの後に人々はついてくるでしょう。

2009-10年度国際会長
エバハルト·J·ヴィルフス

THEME

海外クラブのアクティビティ

「ウィ・サーブ」のモットーの下、世界205の国と地域で恵まれない人々のため、よりよい社会をつくるために奉仕するライオンズ。海の向こうのクラブはどのような活動をしているのだろう？『ライオン』誌本部版が公式各国版から情報を得てまとめたアクティビティ記事を紹介する。中には日本のライオンズに新しいアイデアを提供してくれる活動があるかもしれない。

アメリカ

キャンプ・ビクトリー

キャンプ・ビクトリーで過ごしたある参加者は、「ここは地球上で最もすばらしい場所の一つ」と断言した。木々に囲まれたその場所には、池、運動場、プールがある。バンガロー、クライミングウォール、キャンプファイアー場もある。ペンシルベニア州ミルビルの120エーカーの敷地では、がんや自閉症などの慢性疾患を抱えた子どもたちが、驚きと喜びに満ちた生活を送る。そこではただ子どもとして時を過ごすことが出来るのだ。

「ここでは誰も、見かけや障害によって判断されることはありません」

このキャンプはペンシルベニアのライオンズが開設し、支援を続けている。1987年、ミルビル ライオンズクラブのライオン・ロイス・ウォルフとライオン・デニス・ウォルフは35エーカーの農地を寄贈した。夫妻の息子ニコラスが肝疾患に冒されていたためだ。ライオンズはバンガローを建て、資金を寄付し、LCIF交付金を確保した。彼らの奉仕により、子どもたちに笑顔と愛がもたらされた。写真は皮膚疾患の子どもたちのキャンプ。

Photo/Rebecca Janes

USA

ノルウェー

学生ライオンズの挑戦

Norway

ウガンダのソーシャルワーカーは、25歳のライオンシエアステン・オーレンを振り返り、2歳の双子を抱えた10代の母親、ジョイスへの助言を求めた。当時、ノルウェーの学内ライオンズクラブの会長だったライオンオーレンが、スラム街にあるジョイスの小さな家で初めて彼女に出会った時のことである。マラリアにかかった栄養不良の双子は床に寝かされ、泣こうにも声が出ず、咳をするばかりであった。

「私が思ったのは、『こんな状況にある誰かに対して、いったいどんな助言をすればよいのだろう?』ということでした。何か言おうとしても言葉にならず、涙がこぼれました」

とライオンオーレンは振り返る。ジョイスは彼女を抱きしめ「心配しないで」と慰めた。ライオンオーレンはEメールに次のように綴っている。「私は初めて真実を理解しました。その時突然、『世界を救いたい』という自分の願いが永久に失われたことに気付いたのです」。

彼女が所属するベルゲン・ステューデント ライオンズクラブは世界を救えないかもしれない。が、会員数35人のクラブはウガンダの多くの青少年、聴覚障害者、孤児、その他の人々を支援している。2年前の結成当初、クラブは自分たちにふさわしい事業を見極めるため、5人のチームをウガンダに派遣した。その結果始まったのが、会員の現地派遣事業だ。会員は現地に4~5週間滞在し、ろう学校で授業や施設の修繕、食事の提供を行い、児童養護施設やリハビリテーション・センター、眼科診療所で奉仕し、恵まれない人々に医薬品、蚊帳、学用品を届けている。

Photo/Oyvind Johnsen

彼らはウガンダとかかわり始めた最初の日から、現地の人々との触れ合いを求めて首都カンパラの街に飛び出していった。昨年はスラム街の一つカモチャで「ライオンズ・カップ２００８」を開催。この競技会には１００人余りの若者が参加し、サッカー、バレーボール、ネットボールの試合が行われた。また、ノルウェーのライオンズとウガンダのカエセ・ライオンズクラブが建設した児童養護施設の子どもたちと協力してミュージカルも上演した。

多くの貧しい国々と同様、ウガンダの障害者はしばしば排斥され、政府や民間の支援をほとんど受けていない。クラブは今年、その活動を自立支援事業の確立という新たな段階に進めることになった。6月に16人の会員がウガンダを訪れ、生徒と孤児たちにクリスマス・カードと絵画を作成させる事業に着手した。彼らの作品はノルウェーで展示、販売される。更に、聴覚障害者とその両親や擁護者に手話を教えるサイレント・ボイスの取り組みを支援するため、営利的な養豚場の開設も進めている。ベルゲン・ステューデント ライオンズクラブはＬＣＩＦ交付金を受けて、この事業に４万６千ドルを投じる予定だ。彼らはウガンダのライオンズと協力し、納屋や囲いの設置や、獣医による診察の手配など、サイレント・ボイスが支援する聴覚障害者が、60匹の豚を育てられるよう準備を整えることにしている。

今回の滞在時、ライオンオーレンはホスト・ファミリーの世話になった。商店の裏にある二間のアパートで肩を寄せ合い、山盛りのウガンダ料理を分け合ったことは忘れられない思い出となっている。家族は貧しかったが、そのもてなしは申し分のないものだった。「彼らの温かさと思いやりが最高のもてなしでした。お金など何の関係もありません」。彼女は20歳の時にガーナの児童養護施設で奉仕し、その3カ月間の経験が人生を変えることになった。現在は英語を学びガーナ英語で論文を書きながら、いつかノルウェー開発協力局で働くことを夢見ている。最近ではライオンズの地区国際協調委員長に就任した。

ライオンオーレンはライオンズ会員としてウガンダに赴き他者を助けることを、自らの「使命」と考えている。会員であることへのためらいはずっと前に消えた。「ライオンズの会員でよかったかですって？ そうでない自分の人生など想像することも出来ません」と語る彼女に、ライオンオイビンド・ヨンセンも「入会する前にはライオンズについて何も知らず、スーツを着た保守的なおじさんたちの組織、という認識しかありませんでした。とんでもない間違いですよね」と付け加えた。26歳の現会長ライオンヨンセンは言う。「僕の母がいつも言っていたように、他者を助けることは最大の喜びです。自分では母の言うことを理解しているつもりだったのですが、ライオンズクラブに加わって初めて、その本当の意味を理解出来るようになりました」。

スイス

命を救う水

Swiss

汚染された飲み水が原因で死亡する人は、世界で毎年180万人余り。毎日数千人の子どもたちが下痢による脱水症状のために命を落としている。

アルプスの清らかでおいしい水に恵まれたスイスでは、ライオンズが初の「ライオンズ・デー」を開き、人々に水質改善の問題を訴えた。スイスとリヒテンシュタインの230余りのクラブがこの活動に参加し、スイス産の発泡水ボトルを販売。人々はライオンズがアフリカとラテンアメリカで安全な水を提供する活動に理解を示し、この1日で200万ドルの資金が集まった。

スイスのライオンズは水の太陽光殺菌法（SODIS）を推進している。太陽光と透明ボトルを利用して水を浄化する方法だ。煮沸、ろ過、または塩素消毒する従来の浄化方法はコストが高く味も落ちるため、SODISは実利的な代替手段となる。スイス連邦水生生物研究所によれば、微生物に汚染された水を6時間太陽光にさらすだけで、下痢を引き起こす病原菌を死滅させることが出来る。

集まった資金のほとんどは水質改善とSODISに対する認識向上に役立て、アフリカの11カ国で14件、ラテンアメリカの5カ国で13件の事業が実施された。その結果、現在では85万人がSODISを使って飲み水を処理している。

パナマ

必要な物資を少しでも早く

Panama

コスタリカ国境に近い太平洋岸に位置するチリキの町は、容赦なく降り続いた雨によって広範な地域が洪水の被害に遭った。家屋に被害を受けた人は千人に上り、道路は遮断され、電気も止まった。パナマ（D-1地区）のライオンズはすぐさま救援物資の収集に着手した。ライオンズが被災者のために運び込んだ物資は、飲料水1万2千リットル、500食分の食糧、非常用調理器具200個、毛布、衛生用品、清掃用具など。ほ乳瓶やミルク、おむつ、衣服など乳幼児用の物資も届けて被災者に喜ばれた。

被災地に近いボケテ ライオンズクラブは、洪水発生から数時間以内に市の消防署に救援物資の収集ポイントを設置。被災者への物資配布にも重要な役割を担った。

南アフリカ

人々を空腹から救う

South Africa

南アフリカにおいて飢餓は主要問題の一つだ。この国の子どもたち1800万人のうち60%が貧困状態にあり、食糧の不足が健康問題や発育遅延を引き起こしている。南アフリカのライオンズはこの飢餓問題に歯止めを掛けようと、ライオンズ食糧プロジェクトで毎日約6万人に食事を提供している。410・A地区は39年もの間、貧しい人たちに食事の提供を続けており、現在は年間に2千万人分を提供している。ライオンズはこの活動のために、1年365日休むことなく安全な売れ残りの食品を集める。

「冷蔵庫や保存場所がないため、毎日食品を仕分けします。6台の小型配送車で56軒の店を回り、300余りの団体に分配します。必要な量は供給量をはるかに上回っていますが、入手した分は出来るだけ多くの人に行き渡るようにしています」とライオンスチュアート・マクファーソン。

貧しい地域の無料食堂では、台所から食べ物の匂いが漂い始めると、子どもや高齢者が集まり列を作る。くる日もくる日もライオンたちが運んでいる野菜などの食品は、スープの材料となり、ご飯やパンと一緒に配られる。ここに集まる人々は、ライオンズのたゆまぬ努力によって十分な食事を取ることが出来るのだ。

アメリカ

高齢者に快適な住まいを

USA

ファウンテンシティーはインディアナ州の小さな町。高齢者に手頃な住居を提供することがこの町の課題となっていた。タウン・ミーティングでその議論を聞いたファウンテンシティー ライオンズクラブの昨年度会長ライオンジム・フィッシャーは、ライオンズが手伝えるかもしれないと考えた。クラブが10年前に購入し手つかずになっている土地に、高齢者向け住宅を建設しようというのだ。クラブ理事会の承認を得て拠出された資金は1万ドル。会員16人の小さなクラブは補助金を活用しながら大事業を実現させた。2008年10月に完成した「ライオンズ・パーク」は12軒が入る集合住宅で、入居者は62歳以上の低所得者限定。バリアフリー対応の快適な住まいは好評で、入居待ちのリストが出来ている。

カリフォルニア州ではサンディエゴ・ダウンタウン ライオンズクラブが、非営利組織LCSC (Lions Community Service Corp.) を設立して、高齢者向け集合住宅「ライオンズ館」(写真)を管理している。ライオンズ館は1ベッドルームの131室にゲーム室やテレビ室を備えた高層住宅。祭日などにはクラブが入居者のためにパーティーを開き、楽しいひと時を共にしている。

世界各国

未来を担う子どもたちを支援する

アルジェリアのライオンズは託児所を再建し、ザンビアのライオンズは盲学校を拡張した。

ライオンズは世界の至るところで、また各地域社会や近隣社会で青少年に奉仕している。会員は国境、言葉、慣習に隔てられながらも同じ情熱を分かち合い、子どもたちが疾病、貧困、放置された状態を克服し、それぞれの可能性を十全に発揮出来るよう支援している。

ライオンズによる奉仕の影響は、晴れやかな微笑み、信頼に満ちたまなざし、時には温かい抱擁にはっきりと見てとれる。しかし、本当の効果は心の中に生まれる。誰かが気遣い、手を差し伸べ、愛情を注げば、子どもたちは明るい心で力強く未来に飛び出して行けるだろう。思いやりの輪はどこまでも続いていくはずだ。

●スリランカ／視力ファースト事業「サイト・フォー・キッズ」で視力検査を受けた子どもたち　●アルゼンチン／LCIF交付金を受けてライオンズが建設した児童福祉施設の子どもたち　●インド／デリー郊外のライオンズクエスト導入校。インドでは1万2千人の教師がこのプログラムを修了した　●イラン／ライオンズによる小児眼科検査

アルゼンチン

インド

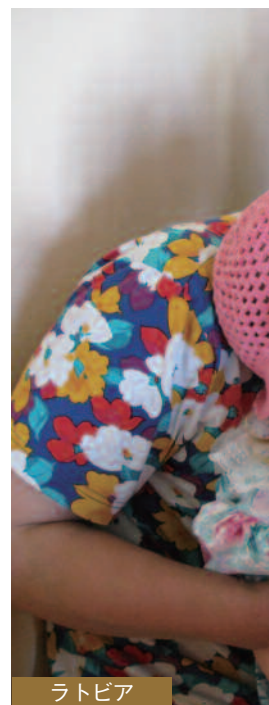
イラン

●ラトビア／アメリカ・ミシガン州のライオンズが国境を越え、眼科検診を実施　●ノルウェー／問題を抱える若者たちに職業訓練を提供　●メキシコ／口蓋裂の治療キャンプで子どもたちは新たな人生を開く　●トルコ／ライオンズが支援するろう学校で、アート制作に取り組む少女

ノルウェー

ラトビア

トルコ

メキシコ

スリランカ

Photo/Manawatu Standard

ニュージーランド

New Zealand

●資金調達アイデア1

鉄路を進む絶景ハイキング

マナワツ渓谷のハイキングは息を呑むような風景を見せてくれる。ライオンズは年に一度、そのコースを人々が安全に歩けるようにする。ウッドビル ライオンズクラブによる「線路とトンネル歩き」は鉄橋を渡り、トンネルを抜けて、絶景を見渡せる5マイルの旅へと人々をいざなう。クラブは鉄道会社と交渉してハイキング当日に線路を閉鎖。歩道や手すりのない橋もあるため、橋沿いなどの要所にライオンズとウッドビル消防隊のボランティアを配置して歩行者の安全を確保する。コースが混み合い過ぎないように参加者の流れを調節し、終点では「焼き立てソーセージ」で心地よい汗を流した人々を出迎える。最近行われた14回目のウォーキングで獲得した資金は3万ドル近くで、クラブが取り組むがん患者のサポートや地域社会事業のために活用される。

アメリカ

USA

●資金調達アイデア2

ライオンズ・ミュージカル

ニューハンプシャー州のキーン ライオンズクラブは1952年から毎年、バレンタイン・デーの前後にミュージカルを上演している。出演するのは地元の人たち。当初は医師が女性役を演じて会場を沸かせるなどコメディー・タッチで人気を博したが、今では本格的なステージが評判を呼んでいる。地方劇場での舞台経験を持つ俳優もいるが、弁護士や教師など地元住民が出演することは変わらない。クラブの第1副会長がプロデューサー役を務めるのが恒例で、振り付けや衣装製作などはすべてボランティアが協力。チケットの売り上げや製作費にもよるが、毎年8千～2万ドルの収益を上げている。

オーストリア

Austria

●資金調達アイデア3

冷えた体を温めるのは……

音楽の都ウィーンを始めとするオー

ストリア各都市のライオンズは、パンチの販売でクラブの活動資金を獲得している。冬の間、クラブは公共の広場の一角にスタンドを設けて、温かいアルコール入りパンチやワインを販売する。掲示板ではライオンズの活動を紹介しPR効果も大。モーツァルト生誕の地として知られるザルツブルグでは、飲み物を楽しむひと時、温かい毛布を貸し出すサービスも。寒さ厳しい冬の街で、温もりの場を提供している。

アメリカ

●資金調達アイデア4

15万人動員のカントリー・フェア

USA

毎年7月の1週間、インディアナ州のグレーンタウン ライオンズクラブが開く4・Hフェアには15万人もの人が集まる。アメリカでは4・Hクラブという青少年組織がよりよい農業、農村作りを目的に活動している。ライオンズは地元の4・Hクラブが結成された翌年の1946年、クラブのメンバーが育てた家畜や農作物を出展するフェアを開催。それが今では州内で4番目の規模のカントリー・フェアに成長した。地元ラジオ局や企業の協賛により、ライブ演奏やタレント・コンテスト、ダートバイク・レースなど盛りだくさんのプログラムが組まれる。会場はクラブ所有の156エーカーの広場で、運営には多くのボランティアが協力してくれる。1週間のフェアの総収入は40万ドルにも上る。このフェアは会員獲得にも大きな効果を発揮し、毎年フェアの翌月には8~10人の新会員を迎えている。

Photo/Tim Kenworthy(TKA Action Photo)

ベルギー

●資金調達アイデア5

資金集めはプールで楽しく

Belgium

ブリュッセル・ヘラルディッククライオンズクラブのスイムマラソンでは、参加スイマーの目標タイムの達成や、障害者の場合には水中にいた時間に応じて、チームの支援者から募金が寄せられる。9時間のリレー形式のレースで、プールサイドではダンスやマーチングバンドがスイマーを元気づける。家庭に問題を抱える青少年の福祉施設や、障害児の施設で編成された特別チームも参加する。昨年は学校やスイミング・クラブ、看護師、会社員など多彩な80チームが参加。集まった募金6万ドルは、ブリュッセル病院の支援や障害児用車両のリフト購入などに活用された。スイムマラソンはクラブ結成当初の25年前から続き、これまでに75万ドルを集めている。

pick up ピックアップ

眼鏡リサイクル・プログラム

再生眼鏡が途上国の人々に可能性の扉を開く

落ち着きがなく勉強に遅れていた子が、眼鏡を手にした日から見違えるように勉強に励み、今では医師になることを夢見ている。その子にとって眼鏡は人生を変える贈り物だ。ライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムは不要になった眼鏡を再生し、発展途上国の必要とする人々の元へ届ける活動だ。ここでは日本での取り組みの事例と共に、オーストラリアのリサイクル・センターの活動ぶりをリポートする。

（取材／河村智子）

活動の拠点、眼鏡リサイクル・センター

世界保健機関（WHO）によると、屈折障害（近視、遠視、乱視）を患う人は世界で1億5300万人に上る。その大半は眼鏡で容易に矯正出来るが、発展途上国の貧しい人たちにとって、それを手に入れるのは容易なことでない。眼鏡がないために学習が遅れたり、仕事に就くことが出来なかったり。そんな不自由な生活を送る人たちに、不要になった眼鏡を届ける活動がライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムだ。

このプログラム、日本のクラブにはあまり浸透していないが、アメリカを始め海外の先進国ではポピュラーな活動となっている。クラブは町の眼鏡店やスーパーに回収ボックスを置くなどして中古の眼鏡を回収し、最寄りのライオンズ眼鏡リサイクル・センターへ送る。センターはアメリカ国内に11カ所、オーストラリア、カナダ、フランス、イタリア、南アフリカ、スペインに1カ所ずつ、計17カ所。収集した眼鏡を再生して、発展途上国のクリニックや、眼鏡配布の支援を行う派遣団に提供している。2008・09年度にセンターが収集した眼鏡は合計344万6963個、配布用に提供した眼鏡は120万5020個に上った。

昨年6月のミネアポリス国際大会でも、大会サービス・センター内に中古眼鏡の収集所が設けられ、3日間で6万1463個が集まった。大会登録者約1万人として、一人当たり6個を持ち寄った計算になる。この眼鏡収集については大会の半年余り前から、国際理事会大会委員会に所属していた栢森新治国際理事（当時）が日本のライオンズの協力を強く求めていた。

その呼び掛けを受けて、334‐A地区（愛知）は地区年次大会で中古眼鏡の収集を行うことを決定。これに地区内クラブの7割を超える87クラブが応え、予想を大きく上回る1万5千個もの眼鏡が集まった。中には地元小学校に協力を求めたクラブもあり、子どもたちの手製の収集ボックスに詰まった眼鏡も寄せられた。地区はこれをミネアポリスへ送るつもりだったが、ここで予想外の事態が持ち上がった。国際本部によると、大会会場では1万5千個を

まとめて受け入れるのは難しいという。そこで代わりの送付先として提示されたのが、ライオンズ・リサイクル・フォー・サイト・オーストラリアだ。

334・A地区からの大量送付の申し入れに、これを機に日本のライオンズとの連携を強めたいとの希望がセンター側から伝えられ、ミネアポリス国際大会でセンター所長を務めるライオンケン・レオナルドとライオン栢森の打ち合わせが持たれることになった。その席で、日本のクラブが眼鏡を送る際の注意点（18ページ）が確認され、ライオンレオナルドからはセンター運営について詳しい紹介があった。

行政との連携で高い処理能力持つセンター

オーストラリアのライオンズが運営するリサイクル・センターは国内外から年間25万個の眼鏡を収集。日本のライオンズからは約5万個が届けられている。設立から15年余りで、アフリカや中東、アジア、欧州、環太平洋の国々で250万個の眼鏡を配布してきた。その高い処理能力は、独自のマンパワーの確保によって維持されている。

センターに寄せられた大量の眼鏡は、オーストラリア東部ブリスベーン周辺にある四つの施設で洗浄、測定され、種類や度数ごとに分類、保管される。

このうち二つは女性受刑者の社会復帰センター内にあり、平日はほぼフル稼働。他の二つは公的機関から安価に借り受けた施設で、週3～5日稼動する。ここで作業に当たるのは、主に刑事罰として社会奉仕を科されたり、就労経験や地域貢献プロジェクトへの参加を義務づけられた失業者の人たちだ。国や州政府との連携でそうした人たちを受け入れ、ライオンズは作業の監督役を務める。これによりセンターは眼鏡再生という本来の目的だけでなく、更正や社会復帰の支援の場にもなっている。行政との連携の他、オーストラリア郵便公社の協力や企業の資金援助を受け、センターの運営は順調だ。

四つの施設で再生された眼鏡は、ライオンズや他の人道的な奉仕団体の要請を受けて発展途上国での眼鏡配布プロジェクトに提供されている。現在、オーストラリアのライオンズはアフリカやティモールでのプロジェクトを計画中。センターではその実現に向けて、年間50万個の眼鏡収集を目標としていると言う。

広がる企業とのコラボレーション

ミネアポリスでの打ち合わせを経て、334・A地区が収集した1万5千の眼鏡は24個の段ボールに梱包されて、8月末に発送された。処理能力の高さには定評のあるオーストラリアのリサイクル・センターだが、昨年秋から年末にかけては目の回る忙しさを経験したに違いない。334・A地区に続いて、東京三軒茶屋ライオンズクラブからも10月に7千、11月に1万4千、12月に7200の眼鏡が届けられたからだ。同クラブが集めた眼鏡は、全国に約90店舗を展開する眼鏡販売会社ZOFFから提供されたものだ。

330・A地区（東京）では東京早稲田ライオンズクラブが以前から眼鏡収集に取り組んでおり、その活動は新聞で報じられたこともある。地区にはそうした記事やホームページの情報を見た企業から、眼鏡リサイクルに関する問い合わせが寄せられるようになった。

ZOFFもその一つ。下取りキャンペーンで集まった眼鏡の活用を検討するうちライオンズの眼鏡リサイクル・プログラムを知り、330・A地区に寄贈を申し入れてきた。その対応を引き受けたのが、東京三軒茶屋ライオンズクラブ。クラブはたくさんの眼鏡が集まることを見込んで、オーストラリアのリサイクル・センターに大量受け入れの可否を確認。了解を受けた上で対応を協議し、国内の送料はもちろん、オーストラリアへの送料もZOFF側が負担することで合意した。

中古眼鏡収集の注意事項
～リサイクル・フォー・サイト・オーストラリアの場合～

○眼鏡の種類について

視力矯正用の眼鏡の他、老眼鏡、サングラスを収集している。特に子ども用眼鏡は不足しがち。日本からの眼鏡は大人用でも小振りな物が多いので、子ども用として利用出来る場合もある。

○眼鏡の質について

フレームが壊れていなければ古くても再生可能。日本から届く眼鏡はどれも状態が良く、リサイクルする上で何の問題もない。

○センターへの連絡について

眼鏡を発送する前に、個数や発送時期をあらかじめ連絡して受け入れの可否を確認すること。

○梱包について

日本からの眼鏡は個々にパッキンにくるむなど丁寧に梱包されている場合が多い。作業の手間を省くためにも梱包は簡単に。一段ずつ新聞紙を挟んで重ねる程度でも特に支障はない。

○関税について

中古眼鏡に関税を課されることはない。送り状の品目に中古（USED）であることを明記。

○支援先について

再生した眼鏡はライオンズやその他組織が行う配布プロジェクトに提供し、配布される。もし自分たちが集めた眼鏡を特定の国に寄贈したいとの希望があれば応じることも出来る。

下取りキャンペーンは3回にわたり実施。店頭や新聞広告、ホームページの案内には、「お客様が提供された眼鏡は『ライオンズ眼鏡再生センター』を通じて海外の眼鏡を必要とする人に配布されます」という文言が謳われた。

クラブにはキャンペーンが終了するごとに下取りされた眼鏡が届き、10月から12月にかけて3回の発送作業を行った。フレームが破損した眼鏡を取り除きながら段ボール箱に詰め込み、梱包していく。発送は船便の国際小包で、14キログラムまでで1個8150円。2回目のキャンペーンで集まった1万4千個は25箱に詰め込まれ、発送された。

東京早稲田、東京三軒茶屋の両クラブには他にも同様の申し入れが寄せられており、企業とのコラボレーションは今後更に広がりそうだ。

◆

名古屋と東京で眼鏡の梱包作業を取材し、その数の多さに驚いた。日本中でいったいどれだけの眼鏡が使われずに放置され、また捨てられていることだろう。黙々と詰め込み作業を続けるメンバーからは時折、「これなんか、かっこいいよね……」と声が上がった。集まった眼鏡の中には使い古した物や明らかに流行遅れのデザインの物もあるが、ほとんどは新しくまだ十分に使えるものだ。その捨てられるはずだった眼鏡が、どこかで誰かの人生を変えるような贈り物となる。それがライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムなのだ。

●同プログラムの情報と世界17のリサイクル・センターの連絡先は、公式ウエブサイト（www.lionsclubs）を参照。

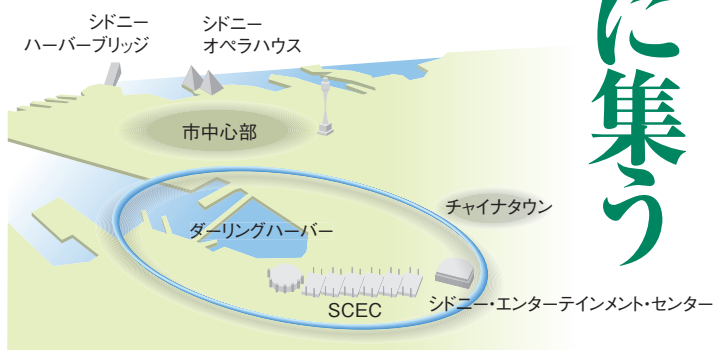
シドニー国際大会情報

世界のライオンズがダウンアンダーに集う

第93回国際大会は2010年6月28日〜7月2日、世界で最も美しい都市の一つと言われるオーストラリア・シドニーで開催される。国際大会ではパレードやインターナショナル・ショーなどのエンターテインメントが華を添えるが、今回から新たに国際青少年音楽コンクールのコンサートが加わり、多彩なプログラムが用意されている。国際協会の長い歴史の中で、南半球での国際大会はこれが2回目。まだ国際大会を未経験という方も、このチャンスに世界のライオンズと交流を深めてはどうだろう。

大会会場は魅力いっぱいのダーリング・ハーバー

シドニー国際大会の主会場となるシドニー・コンベンション&エキシビション・センター（SCEC）は、シドニー中心部の西、コックル湾に面したダーリング・ハーバーにある。ビジネス街シティーに隣接するこのエリア、かつては国内の羊毛の3分の1が集まる貿易港として栄えたが、他地域の開発が進む中で取り残され、倉庫や工場は廃墟のようになった。この場所に再びスポットライトが当たったのは1988年に迎えた建国200年祭のことで、大規模な再開発により一大観光地に生まれ変わった。

入江を囲むようにしてシドニー水族館や国立海洋博物館、更にはカジノや劇場、ホテル、レストランが集まる複合施設スターシティカジノなど、エンターテインメント・スポットが点在し、ショッピング施設も充実。夜になるとシティーの高層ビル群の夜景がきらめ

第93回ライオンズクラブ国際大会
オーストラリア・シドニー
2010年6月28日（月）～7月2日（金）

公式行事予定（暫定）

6月28日(月)

9:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
20:00～23:00	地区ガバナー・エレクト・セミナー晩餐会

6月29日(火)

9:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
11:00開始	インターナショナル・パレード
14:00～16:00	会員キー賞アイスクリームの集い
15:30～17:00	各種セミナー
18:30～20:00	インターナショナル・ショー

6月30日(水)

9:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
10:00～13:00	開会式（第1回総会）
13:00～15:00	メルビン・ジョーンズ・フェロー昼食会
13:30～17:00	各種セミナー
19:30～21:30	国際青少年音楽コンクール

7月1日(木)

9:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
10:00～12:30	第2回総会
13:00～17:00	各種セミナー
18:30～22:30	銀杏賞晩餐会

7月2日(金)

7:00～10:00	投票
9:30～13:00	閉会式（第3回総会）

2009/11/4現在

●主要会場

展示ホール及び大会サービス・センター、各種セミナー：
シドニー・コンベンション＆エキシビションセンター

総会、インターナショナル・ショー：
シドニー・エンターテインメント・センター

■大会登録

国際大会に参加するには大会登録が必要。登録料は普通登録（～5月1日）が130ドル、後期登録（5月2日～現地）が150ドル。協会ウェブサイトでオンライン登録が出来る。

■代議員資格証明

国際理事会の決定により、今年度からはクラブ幹事あてに資格証明書用紙の送付を止め、協会ウェブサイトでダウンロードするか、『ライオン』誌掲載の用紙（22ページ）を使用する。クラブは代議員及び補欠代議員の資格証明書に必要事項を記入、署名し、5月1日までに提出する。これ以降は、各代議員本人が記入済みの証明書を国際大会の資格審査場へ持参する。

●大会最新情報は公式サイト（www.lionsclubs.org）で。

Photo／Tourism Australia

き、旅行者にも地元シドニーっ子にも人気の高いエリアだ。シドニー中心部の他のスポットとは公共交通機関のシティレールやメトロ・モノレールで結ばれて、アクセスもよい。

充実した設備のSCECには大会サービス・センターと展示場が置かれ、各種セミナーも開かれる。3回の本会議とインターナショナル・ショーの会場シドニー・エンターテインメント・センターは1万2500人収容、2000年のシドニー・オリンピックではバレーボール競技の会場となった。

大会プログラムへの参加も観光も、どちらもたっぷり満喫出来る絶好のロケーションに恵まれ、参加者に楽しい思い出を残す大会になるはずだ。

ライオンズクラブ国際協会提出用

（2010年5月1日までに上の部分を国際本部へ郵送してください）

代議員及び補欠代議員証明用紙

ライオンズクラブ国際大会 – 2010年オーストラリア・シドニー

クラブ番号： 地区： 代議員割当数：

会員数 ：

クラブ名：

（ローマ字）

住所：

クラブの割当代議員数は「国際会則」第6条第2項を参照しご確認ください。

これは大会登録用紙ではありません。各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録にはライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いいただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org） でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを選択 ☐ 代議員 または ☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）：________________________________ 署名：________________________________

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

____

署名（クラブ会長、幹事または会計）

上記をライオンズクラブ国際協会(太平洋アジア課)宛に2010年5月1日までに郵送してください。それ以降は直接大会会場にお持ちください。

郵送先：Lions Clubs International・300W 22nd Street・Oak Brook, IL 60523-8842 USA

JA

代議員/補欠代議員用控え

（この控えを国際大会へご持参ください）

ライオンズクラブ国際大会 – 2010年オーストラリア・シドニー

クラブ番号： 地区： 代議員割当数：

会員数 ：

クラブ名：

住所：

LCI stamp for Alternate Delegate Certification

クラブの割当代議員数は「国際会則」第6条第2項を参照しご確認ください。

これは大会登録用紙ではありません。各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録にはライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いいただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org） でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを選択 ☐ 代議員 または ☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）：________________________________ 署名：________________________________

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

____

署名（クラブ会長、幹事または会計）

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ・プレミア ライオンズクラブが実施した糖尿病啓発ウォーク

Photo by Charlie Neuman

ライオンズクラブ国際協会を国際糖尿病連合が表彰

２００９年10月19日～22日にカナダ・モントリオールで開催された第20回世界糖尿病会議において、ライオンズクラブ国際協会が国際糖尿病連合から表彰を受けた。糖尿病の予防や啓発に関する目覚しい奉仕活動に対して贈られたもので、エバハルト・ヴィルフス国際会長は協会を代表して「増加を続ける糖尿病に関する活動にライオンズがより積極的に取り組むよう、今後も促がしていきたい」と述べた。

国際協会は84年に糖尿病教育プログラムを開始。以来、各地で無料のスクリーニング・テストや小児糖尿病患者のキャンプなどが実施されている。

代議員及び補欠代議員証明の手順が改訂

国際大会の代議員資格証明手順が改訂（1月号29ページ「国際理事会の決議事項要約」参照）され、クラブ幹事あて「代議員及び補欠代議員証明用紙」送付が廃止された。各クラブは同用紙を協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でダウンロードするか、本誌掲載ページを必要部数コピーし使用することになる。協会サイトでは「資格証明／投票」（「ニュースとイベント」→「国際大会」→「なぜ国際大会に参加するか」）にあり、Q&Aもダウンロード出来る。本誌は本号（22ページ）と4月号に掲載。クラブの代議員割当数は「国際会則」第6条第2項（『ライオンズ必携』第49版44ページ）を参照。同用紙の送付期限は5月1日。期限までに提出しなかった場合は代議員本人が大会サービス・センターの資格審査会場で提出する。

330-B地区のカンボジア地雷除去活動支援

２００９年11月18日、カンボジアの首都プノンペンにあるカンボジア地雷処理センター本部において、330-B地区（神奈川・山梨）が「日本地雷処理を支援する会」（ＪＭＡＳ）へ贈った機材の贈呈式が行われた。ＪＭＡＳはカンボジアで地雷・不発弾処理活動に取り組んでおり、同地区は２年前から地区内クラブに協力を呼び掛けて支援を行っている。地雷・不発弾処理の迅速化と事故の減少、そして地域住民とりわけ子どもたちに安全で平和な生活環境をもたらすことがその目的。今回は地区内で集まった募金５００万円とＬＣＩＦ一般援助交付金５００万円の合計１千万円の資金で、ＪＭＡＳの活動に必要なピックアップ型車両３台と牽引ウィンチ等車両装備品を贈呈した。贈呈式には桜井孝一元地区ガバナーら総勢24人のメンバーが出席。桜井元ガバナーからＪＭＡＳカンボジアの古賀統括代表へ目録が手渡された。

長年にわたる悲惨な内戦によって、カンボジアは全土にわたり地雷・不発弾に汚染され、農村部を中心に今なお事故が後を絶たない。２００８年の死傷被害者は２７０人で、その35％が子どもだった。

ライオンズクラブ国際協会 財務状況報告 - 一般資金 2009年6月30日現在（単位：1,000ﾄﾞﾙ）

項目	金額
資産	
現金及び現金同等物	$21,329
受取勘定	99
その他流動資産	3,084
市場性のある有価証券	62,007
不動産及び備品（減価償却後）	8,992
資産合計	**$95,511**
流動負債	
支払勘定	$3,503
協会内資金振替分	17,202
未払費用	5,492
未払年金費用	298
その他流動負債	300
流動負債合計	**$26,795**
固定負債	
自家保険積立金	$6,567
未払年金費用	1,606
年金債務	19,332
その他固定負債	133
固定負債合計	**$27,638**
純資産	
期首残高	$59,382
当期利益	(5,840)
年金債務調整額	(12,464)
期末残高*	**$41,078**
負債及び純資産の合計	**$95,511**

*会則で制限される緊急積立金48.673ﾄﾞﾙは含みません。（単位：1,000ﾄﾞﾙ）

ライオンズクラブ国際協会の監査済み年次財務報告書は、書面にてご要請頂けます。連絡先は次の通りです。

Eメール: finance@lionsclubs.org

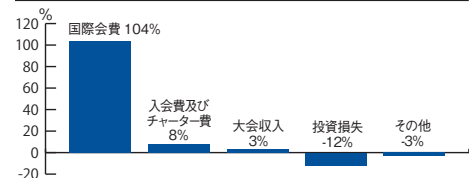
ファクス: 630-706-9187

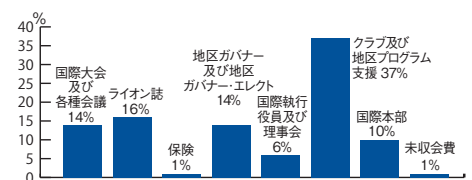
郵便: 300 W 22nd Street, Oak Brook, IL 60523 U.S.A.

ライオンズクラブ国際協会 収支 - 2009年6月30日までの一般資金（単位：1,000ﾄﾞﾙ）

収入は前年度比で1,030万ﾄﾞﾙ減少。おもわしくない投資結果、為替差損、大会収入減少等がその主な原因。一般資金と緊急積立金は2009年6月30日に終了した会計年度にそれぞれ（9.1％）と（16.71％）の投資損失を計上した。協会の投資成績は規模と目的が類似する他のファンドを上回るものであった。

2008-09年度収入	
国際会費	$50,693
入会費及びチャーター費	3,982
大会収入	1,317
投資損失	(5,761)
その他	(1,391)
合計	**$48,840**

%
国際会費 104%
入会費及びチャーター費 8%
大会収入 3%
投資損失 -12%
その他 -3%

経費は前年度比で22万2,000ﾄﾞﾙ上回っていた。これは、一般賠償責任保険関連経費は減っていたものの、プログラム支援経費と貸倒引当金が増えていたことに起因する。一般賠償責任保険にかかわる減少は、好ましい結果を反映するもの。

2008-09年度支出	
国際大会及び会議	$7,870
ライオン誌	8,504
保険	714
地区ガバナー及び地区ガバナー・エレクト	7,751
国際役員及び理事会	3,256
クラブ及び地区プログラム支援	20,371
国際本部	5,613
未収会費	602
合計	**$54,681**

335・A地区とスペシャルオリンピックスがフェスティバル共催

335・A地区（兵庫東／石本章宏ガバナー）はガバナー重点施策の一つに「スペシャルオリンピックス（SO）への理解と協力」を掲げ、地区スペシャルオリンピックス特別委員会を設置している。SOは知的発達障害のある人たちにさまざまなスポーツ・トレーニングと、その成果発表の場である競技会を提供し、自立や社会参加を支援する国際組織。これらのスポーツ活動に参加する人たちをアスリートと呼ぶ。

地区SO特別委員会では地区の会合やクラブ例会でPRビデオを放映するなど、SOへの理解と協力を求める活動に取り組んでいる。また同地区は昨年度開催した「女性会員の集い」でSO日本の細川佳代子名誉会長を講演に招いており、これをきっかけにしてアスリートと市民が触れ合う機会を作ろうと模索してきた。

2009年11月8日、JR神戸駅の地下街にある広場「デュオドーム」で、335・A地区とSO日本・兵庫の共催で「ふれあいフェスティバル」を開催した。会場ではステージ・アトラクションの他、20店舗が出店して物品販売も行われ、19団体がダンスや太鼓などを披露して訪れた人々から大きな拍手が贈られた。

4部門で創造性を競う国際コンテスト

毎年行われている「ライオンズクラブ国際コンテスト」は、クラブや地区、複合地区の創造性を発表し、その成果を世界中の仲間と共有する機会となっている。昨年度までは6部門だったが、昨年秋のニューオーリンズ国際理事会で写真とPRアイデアの2部門の廃止が決定し、今年度からは交換ピン、フレンドシップ・バナー、会報、ウェブサイトの4部門で行われることになった。このうち交換ピンとフレンドシップ・バナーは製作した公認業者から出品作が提出されるが、会報とウェブサイトの2部門にエントリーするには5月1日までに応募が必要となる。コンテスト規則を記載した応募書式は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のオンライン・コミュニティー内にある「ライオンズクラブ国際協会コンテスト」のページでダウンロード出来る。

なお、コンテストの審査は国際理事会PR委員会が行い、入賞者は国際大会で発表されると共に『ライオン』誌に掲載される。

会議録

第2回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会（11月5日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：齊藤實、矢口武克、大熊泰雄、千葉正勝、鈴木正二、小林登、加計邦夫、住本親人各委員）

①前年度管理委員会との引継報告②連絡事務所管理委員会関連各規定の検討③報告事項④その他

第2回複合地区会則委員長連絡会議（11月27日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：宇田川雄弘、山田稔、米谷春夫、坂井正、松尾精介、橋本隆夫、濱田富雄、福島武各委員長）

①第1回会議要録の確認②秋季国際理事会決議要約の確認③申し送り事項の検討：役員必携・第3編クラブ会計④2010・11役員必携改訂の検討⑤申し送り事項の検討：複合地区会則⑥その他

第5回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（11月30日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：石井征二、後藤忍、三浦利治、加藤弘明、太田道信、大村哲郎、山地章靖、北島建則各委員、杉本忠夫、不老安正両国際理事）

①ライオンズ国際青少年音楽コンクール②「ポルフイリン症を難病指定に」署名のお願い（336複合地区）③国際協会の新振込システムについて（国際協会日本事務所）④日本からの国際役員の擁立について（333複合地区加藤議長）⑤その他

第２回複合地区ＹＥ委員長連絡会議（12月1日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：今井三和、深川明俊、坂井源一、切中厚美、松田毅、松本正福、志岐好春各委員長、清野一彦委員長代理）

①冬期交換②春・夏期交換

第５回ライオン誌日本語版委員会（12月9日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：杉本忠夫国際理事、瀧澤嘉門、林静誠、砂田繁雄、大島康男、小田邦雄各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①12月号（10万9100部発行）出来②1月号記事内容の確認③2月号以降台割（案）と主要記事予定④ライオン誌日本語版事務所の運営⑤オンライン報告システムServannA⑥その他

複合地区国際大会委員長連絡会議【小委員会】（12月10日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：滝澤巌、桜井孝一両委員長、渡邉晃副委員長、山浦晟暉2010～12年国際理事候補者）

I第93回国際大会 A.インターナショナル・パレード B.日本ライオンズ代議員会及びジャパン・レセプション

新結成クラブ

北海道・釧路ゆうやけ（高橋成人会長）▼12月16日結成▼スポンサー／釧路ぬさまい

訃報

■元国際役員

ライオン米島忍（大阪東）

2009年12月28日死去、84歳。58年入会。76年度335-B地区ガバナー。90～92年国際理事。国際理事任期2年目には執行委員会メンバーとして国際協会の中枢で活躍した。協会の最高の栄誉である国際親善大使賞を受賞している。

ライオン坂本和彦（青森県・鶴田）

1月8日死去、62歳。07年度332-A地区ガバナー。

ライオン佐藤敏郎（静岡県・新居町）

今年度ライオン誌日本語版委員会委員。1月8日死去、85歳。89年度334-C地区ガバナー。

■献眼者

8月＝ライオン大守治郎（岡山県・総社）

国際本部・太平洋アジア課発――

オークブルック通信④

日本でのeMMR導入

国際本部は毎月、全世界のクラブから月例報告書の提出を受け、入・退会者の会員管理などを行っている。以前は郵送による提出で、本部事務局内に大量の報告書用紙を保管していたが、現在は全クラブの85%がインターネットを利用したオンライン報告システムWMMR（Web Monthly Membership Report）で報告し、ペーパーレスを実現している。更に本部のIT部は近い将来、現行のWMMRからより高性能のeMMR（Electronic Monthly Membership Report）に移行する計画を進めている。

eMMRは複合地区のオンライン報告システムが確立している場合に、そのシステムと連動させることで導入することが出来る。ドイツやフランスなどヨーロッパの国々では、既に数年前からeMMRが使われてきた。

日本では現在、32準地区が利用しているServannA（サバンナ）というシステムがあり、ライオン誌専用版を含めると99%のクラブがオンラインで報告している。そのため昨年末から、ServannAと本部への会員報告を連動させるeMMR構築のための作業を進めてきた。2010年3月分からeMMRに移行する予定だ。これによって次のようなメリットが見込まれる。

- クラブ、地区の集計と国際本部集計のデータの誤差がなくなる
- クラブが行う地区と本部への報告提出が一つのウィンドウ画面上で出来るようになる

昨年末から各地区で両システムのデータ照合が行われ、移行作業は順調に進行中。新システム導入前に、地区から各クラブに詳しい説明が行われることになっている。

330～333複合地区(東日本)担当
GMTリーダー
後藤　忍

2008年度から3年間にわたり継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

今年度半ばの折り返しを前に、12月にエバハルト・ヴィルフス国際会長から次のような特別メッセージが送られてきました。

「前略、大変嬉しいことにMOVE TO GROW実現への私たちの努力は、極めて前向きな成果を示し始めていることを、ライオン各位にご報告申し上げます。11月末の時点ですべての地域において改善が見られ、全世界の会員純増は1万1千人を超えております。これは過去10年余りで最高の結果であり、前年同期に比べて2倍以上の成果を示すものです。半期でこのような成果が収められたのは実に素晴らしいことです。こうした目覚しい功績達成に貢献してくださった各クラブと地区ガバナー・チームに感謝致します」

世界の会員数の大幅な増加で新年を迎えることが出来たのは大変喜ばしい結果です。しかしそれを大別してみると、目覚しい躍進を遂げているのは一部の国々で、特にライオンズの歴史が長い国々は下げ幅を縮めてはいるもののいまだマイナスになっております。七つの会則地域のうち、インド・南アジア・アフリカ・中東(ISAME)のインド、パキスタン、スリランカはここ数年、大幅な増加を続けておりますが、最も増加率の高いのはネパールで5年間で4倍の会員数8千人強に成長しました。日本の所属する東洋・東南アジア(OSEAL)ではすべての国で純増になっております。特筆すべきは中国で、8千人の会員数が今後2年以内に4万人になり、やがては10万人を超えると予想されております。

●会則地域別会員数(2009年11月末／国際協会集計)

会則地域	クラブ数	会員数	女性会員数	期首からの増減
アメリカ及びその周辺	12,827	375,884	91,882	-2,432
カナダ	1,669	39,255	9,385	-501
中南米･メキシコ･カリブ海諸島	3,866	94,301	33,939	135
ヨーロッパ	9,558	269,089	46,405	-1,259
インド･南アジア･アフリカ･中東	7,579	264,034	43,362	7,082
東洋･東南アジア	8,370	243,808	45,819	7,425
大洋州及びその周辺	1,865	43,733	12,281	724
合計	45,734	1,330,104	283,073	11,174

今期の日本はクラブの解散や合併が多く見られましたが、会員数は大幅に増加しております。これは地区ガバナー・チームとMERL関係者の大変な努力の結果と思われます。そして女性会員、家族会員、若い会員の増強に対する認識が浸透し、その重要性が理解されてきた表れと感じます。

冒頭に紹介した国際会長のメッセージは、次のように結ばれていました。

「私たちが会員増強を求めるのは、会員こそが『われわれは奉仕する』というライオンズのモットーを実現させるために不可欠な資源だからです。私たちが行ってるさまざまなプログラムを今後も続け広げていくには多くの会員が必要です。私たちは可能な限り世界のあらゆる地域で私たちの存在を増大させる必要があります。今年も引き続き関係各位のリーダーシップを発揮して頂き、新入会員発掘とエクステンションそして退会防止のために地区のクラブとメンバーの意欲を喚起してください。ライオニズムの高揚に向かって皆さんと最大限の努力をしましょう」

LCIFファイル

LCIF Update

介護する人々にひと時の休息を
――障害児キャンプ・プログラム

アレシア・ディマール

アメリカ・ミネソタ州に住むデイブ・リング氏は、１９９２年に娘のケルシーちゃんが生まれてから、障害を持つ子どもの父親として生活してきた。

父親としての毎朝は、ケルシーちゃんの介護から始まる。早朝から入浴、着替え、食事の世話。そのすべてが終わってから、自身の身支度をし、仕事に出かける。ケルシーちゃんは今年17歳になった。毎日休みなく続く介護は、家族にとって大きな負担となる。

そんな中、リング氏はエデン・ウッド・センターが提供する「レスパイト（休息）ケア・プログラム」を知った。日々介護に奮闘する家族に代わって、ひと時の休息と自分の時間を取り戻すチャンスを与えるプログラムだ。

「いちばんうれしいのは、プログラムを運営するスタッフが、私の休息時間を尊重し、緊急でない限り連絡をしてこないことです。スタッフはみな知識も経験も豊富で、プログラム参加時には既に私の子どもの症状を熟知していました。緊急の場合も、常に適切な対応をしてくれるので、例え連絡が入ったとしても、慌てず安心していられます。これは障害を持つ子どもの親にとっては、非常に心強いことです」と話すリング氏。

Lions Clubs International Foundation

エデン・ウッド・センターではライオンズクラブ国際財団（LCIF）と地元ライオンズクラブの協力の下、最大30人まで参加可能な週末の1泊キャンプ「キャンプ・エデン・ウッド」を開催、年間９００人の障害を持つ子どもたちを迎えている。

エデン・ウッド・センターの創設は１９２５年、ミネソタ州ミネアポリス南西部の郊外に、自閉症や脳性麻痺、脳損傷、ダウン症、その他さまざまな要因で精神的・肉体的な発育障害を持つ人々を支援するための施設として設置された。普段は介護に追われる家族がひと時の休息をとっている間、子どもたちは、アスレチックで遊んだり、散歩したり、アート・クラフトを作ったりしながら、キャンプ場で楽しい週末を過ごす。

カウンセラーと共にポーズをとるケルシー

最近、キャンプ場内にある宿泊施設が、LCIFの交付金により改築された。以前は、車いすでの利用に制限があり、また障害者用のトイレも設置されていなかった。

「以前の施設では、年間を通じてこのようなプログラムを提供することは不可能でした。LCIFのおかげで、施設が充実し、開催機会も増え、ケルシーが週末のキャンプに参加出来るのかどうか心配する必要がなくなりました」

とリング氏は話す。

エデン・ウッド・センターはフレンドシップ・ベンチャーズという組織の一部で、この組織では「キャンプ・エデン・ウッド」の他に、ミネソタ州中央部の2カ所で「キャンプ・フレンドシップ」「キャンプ・ホープ」を開催している。LCIFは長年、フレンドシップ・ベンチャーズを支援、今までに四つの交付金から総額27万5千ドルを拠出し、その活動の発展・拡大に貢献している。

LCIFと地元ライオンズクラブは今後も協力し合い、エデン・ウッド・センターやフレンドシップ・ベンチャーズへの継続的な支援を通して、障害のある人々のサポートに従事していく。

SightFirst Update

世界視力デーを祝して

「各種奉仕団体やNGOの中で、ライオンズが初めて世界規模で小児失明への難題に立ち向かうことが出来たのは、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）や世界中のライオンズクラブに信用があるからです」と、エバハルト・J・ヴィルフス国際会長は話す。

世界では140万人の子どもたちが失明しているが、その多くは早期発見や適時治療によって、視力を保護出来た可能性がある。児童の視力検査の重要性を示すために、ヴィルフス国際会長と彼の妻マルギットはチェコ共和国・プラハのライオンズと共に、ライオンズ世界視力デーの国際イベントの一環として、125人の幼稚園児を対象に視力検査を実施した。

チェコのライオンズは、同国で就学前の子どもたちに無償で視力検査を提供しているNGOプリマ・ビサスと地元の眼科医とパートナー関係を結び、プラハにある学校2校に通う子どもたちを対象に無償で視力検査を実施した。三者は今後1年間、794人の子どもたちの視力検査を実施することを目標に、視力ファースト交付金を基にしたパートナーシップ・プログラムを継続していくことになる。

この10年間、ライオンズクラブ国際協会は10月の世界視力デーを記念して、視力関連アクティビティを世界各地で実施してきた。最近のイベントはアメリカ・アリゾナ州のナバホ族居留地、マリ、ボスニア、スリランカ等で開催されている。

また世界各地で、独自のイベントも開催されており、例えばイギリスのライオンズは、目隠しした状態で歩くウォーキング大会を実施した。この事業には国内930のクラブが参加し、数千人の人々が失明者の気持ちを体験するために、目隠しを着用し歩行した。

フロリダ州セントピーターズバーグのライオンズは眼鏡のリサイクル、視力検査、パートナーシップなど、新しい視力関連プログラムについて話し合う、地域の会合を開催。フロリダ・ライオンズキャンプの代表者、ライオンズ眼科施設、南東部盲導犬協会やパイネラス・ライトハウスなどの団体が参加した。

ガーナでは、テマ ライオンズクラブがメソジスト総合大学の学生を対象に視力検査を実施し、緑内障など視力に対する脅威についてセミナーを開催した。

カメルーンの複数のライオンズクラブは合同で、視覚障害者に眼鏡100個を提供し、またランクインティーニ病院に眼科設備を提供した。

インドのマドラス・テンプルベイ ライオンズクラブはサンカラ・ネスラヤ、スコープ・エイドといった団体との協力の下、ムスカドゥの住民や周辺の村で、特に女性や子どもたちを中心に無料のアイキャンプを実施。また11件の白内障手術費を提供した。

「私たちは二つの違う店舗にテーブルを設置して、ライオンズの視力障害者に対する活動の資料を配布しました」

ニューハンプシャー州メレデス ライオンズクラブのマリー・バレリーは言う。このイベントを宣伝するために、ライオンズは地元の新聞社3社と州の新聞社に記事を送り、すべての新聞社に取り上げられた。同クラブは既に2010年のライオンズ世界視力デーの計画を準備しているという。

視力ファーストを通して、ライオンズは白内障手術によって760万人の視力を保護し、また3千万人以上の深刻な視力低下を予防し、何億人ものアイケア・サービスを改善してきた。

第22回国際平和ポスター・コンテスト

テーマ「平和が生み出す力」　複合地区レベル最優秀作品

今年も、世界中から約35万人の子どもたちが参加するライオンズクラブ国際平和ポスター・コンテストが繰り広げられている。日本でも9万余人からの応募があり、各クラブ、地区レベルの選考を経て複合地区の最優秀に選ばれた7作品が、国際レベルの審査に駒を進めた。その秀作をご紹介しよう。

国際平和ポスター・コンテストは、絵を描くことを通して、子どもたちが平和について考え表現する機会を提供するもの。各クラブがスポンサーとなり、11～13歳の子どもたちに、年ごとに設けられる平和にちなんだテーマについてポスターを描いて応募してもらう。

国際レベルの最終審査はアメリカの国際本部で、メディア、芸術界、文学界、青少年組織の面々から成る国際審査員団によって行われる。優秀作品24点が選ばれ、そのうち1点が最優秀賞となる。最優秀賞受賞者には賞金2500ドルと記念の盾が贈られ、更に、3月に国連ライオンズ・デーの中で催される授賞式へ招待される。国際審査の結果は、本誌が皆さんの手元に届く頃、2月初旬に発表される予定だ。日本の子どもたちの作品はどうなるか。楽しみである。

来年のコンテストに応募するためのキットはライオンズクラブ国際協会日本事務所（TEL：03・3494・2931　FAX：03・3494・2933）で販売されている。今回参加したクラブもそうでないクラブも、ぜひ奮って参加しよう！

国際平和ポスター・コンテストについての詳しい情報や受賞作品は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org/JA/index.php）に掲載されているので参照されたい。

331複合地区：石橋さくら（12歳）
スポンサー・クラブ：北海道・函館北斗
「『地球の子どもは皆仲良し』という気持ちで描きました。子どもたちが楽しく幸せに暮らせたら、世界は平和だと思います」

332複合地区：高橋怜美（13歳）
スポンサー・クラブ：秋田県・横手
「私は『平和』とは地球の生き物みんなが生き生きと命を輝かせることだと思います。その思いをこの絵に込めました」

333複合地区：伊藤幸（13歳）
スポンサー·クラブ：茨城県·取手
「戦争をなくして皆が平和に暮らせる未来になるよう願いを込めました」

336複合地区：村田優未（13歳）
スポンサー·クラブ：高知北
「核兵器のない平和な世界へ、国々が仲良く、病気やケガで苦しむ人、差別などでつらい思いをしている人たちが世界中からいなくなってほしいと強く希望しています」

334複合地区：桑原みずき（12歳）
スポンサー·クラブ：静岡県·磐田
「差別や争いごとのない世界、皆が温かい気持ちで平和を伝えようとする気持ちを表現しました」

335複合地区：菅谷俊裕（12歳）
スポンサー·クラブ：奈良県·橿原
「戦争がなくなって世界が平和になったら、世界中の友達と宇宙船に乗って、宇宙から、 僕たちの住んでいる奇麗な地球を一緒に眺めたいです」

337複合地区：矢野秀弥（11歳）
スポンサー·クラブ：福岡県·筑穂
「いろんな国があって、いろんな人がいるから、一人ひとりとつながって、助け合ってほしい」

CLUB REPORT

クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は56ページ参照

高知北ライオンズクラブ

モンゴル留学生受け入れ15周年

10月25日、実りの秋たけなわの高知市三翠園において、高知北ライオンズクラブ（36人）の結成25周年記念大会が開催された。引き続き、クラブ結成10周年記念事業として始めたモンゴル国児童の短期留学生受け入れ事業（11～13歳を約3カ月）が15周年になることから、モンゴル留学生受け入れ事業15周年記念式典を開催した。日本国外務省の後援も得ることが出来た。

15年前に第1期留学生として、当時11歳で高知を訪れたサロールさんをはるばるモンゴル・ウランバートルから招き、また駐日モンゴル国特命全権大使ジグジット夫妻臨席の中、関係者約400人がその節目を祝った。

当時サロールさんはモンゴルで3年間日本語を学び、その小さな胸に不安と期待を抱きながら来日した。もう一人の留学生ボロールさんと共に、高知市立追手前小学校の生徒としてホームステイ先から3カ月間通学した。彼女の将来の夢は通訳となり、日本とモンゴルの架け橋となることだった。その後、国費留学で千葉大学に学び、現在、駐モンゴル国日本大使館の職員として活躍している。彼女はあいさつの中で、「多くのことをこの高知で学び、人生の大きなチャンスとなりました。これからもたくさんの子どもたちが高知へ留学出来ることを期待しています。今も高知が大好きです」と語ってくれた。彼女の成長を目の当たりにし、この事業を継続してきて本当に良かったと思った。今後も引き続き貢献出来ればと、多くの会員が再確認した。

留学生を受け入れることにより、彼らと接する日本の子どもたちも異国の文化や生活習慣を学ぶことが出来、相互理解が深まることになる。幼い頃の純粋な体験ほど大切なものはないと思う。

（会長／高橋光男）

兵庫県・神戸みなとライオンズクラブ

手話シャンソン・アクティビティ実施

神戸みなとライオンズクラブ（47人）は、今期三つのクラブが合併して誕生したばかり。「手話シャンソン」はその中の1クラブ、神戸北野ライオンズクラブのアクティビティで、これを新生クラブでも力を合わせて実施することにした。今期会長の私にとってはこの事業は初めて。旧神戸北野ライオンズクラブの中山敏治前会長に同行してもらい、ろうあ協会を始め関係機関にあいさつと参加のお願いに回った。

今年で18回目を迎えるこのアクティビティのすばらしさを、私はよく知っていた。歌手・朝倉まみさんの心地よくかすれた歌声と感情のこもった手話が織りなす絶妙なシャンソンが、聴覚障がい者のお客様に深く深く受け入れられてゆくシーンは、何度見ても感動的だ。

去年までは一観客として堪能していたが、今年からは我々の手でそれを作り出すのだ。私の開会あいさつはOHPで全文文字化されるから、「一言一句間違ってはいけない」などと脅かされるし、手話で歌う時は最前列だし、大変なプレッシャーである。直前に参加したOSEALフォーラムでも練習に勤しんだほどだ。

役割分担、手話通訳等の手配・お礼……。山のようにある仕事は旧神戸北野メンバーズがテキパキと片付けてくれた。ありがたかったが、来年からは全員で手分けして当たらねば、と決意を新たにした。

お客様はクラブ名が変わっても来てくれるかしら？　手違いはなかったか？　さまざまな不安を抱えつつ迎えた当日は快晴。高鳴る胸を抑えてのあいさつ。まぶしいライト越しに見える客席は超満員！

その後はとてもスムーズに流れ出した。朝倉さんの手話とシャンソンに酔いしれるお客様。緊張しながら手話で歌うメンバーたち。朝倉さんが聴覚障がいのお客様を舞台に誘い出し『オーシャンゼリゼ』を一緒に歌い踊る。休憩タイムには、目を潤ませた他クラブのライオンが「いいアクティビティですねぇ」と感心してくださる。私たちも胸がいっぱいになった。アンコールの『花』を朝倉さんが歌い、舞台は幕を閉じた。

お客様を見送り、久しぶりに心地良い疲れを感じた。やはりライオンズはアクティビティを行うことに意義があると、しみじみ思い至った一日だった。

（会長／堀口清隆）

京都洛南ライオンズクラブ

「Joint S&E Forum」開催

11月21日、京都洛南ライオンズクラブ(38人)は京都リサーチパークを会場に、7回目を迎える青少年育成事業「Joint S&E Forum～人生・未来・いきいき語ろう～」を実施した。

高校生が社会を知り、人生、未来に夢を持ってがんばってくれるよう、Student(学生)とExecutive(経営者、役員)が一堂に会し語り合おうというこの企画。年々反響が大きくなり、今やクラブの重要継続事業である。

今回も府・市教育長を来賓に、教育委員会職員、学校長、教師(30人)、ブラザー・クラブの会長、幹事を迎え、生徒は6校から120人が集った。

第一部はまず生徒たちの学習発表。環境をテーマにした「小さな生物が地球を救う! ～増加する屋上緑化への警鐘!～」「風洞実験より風力発電機の風車の設計」、自動車科の生徒による京都らしい「移動式茶室の製作」、コンピューターのJavaプログラミングで製作したゲーム、美術工芸の生徒によるファッションショーなど、私たちの世代とは違った学習内容に関心しきり。また、L高山省吾が「How is your Positive Mental Attitude?」と題し、積極的な精神力を持ちなさいと講演し、生徒たちは感動もあらわに聞き入っていた。

第二部は生徒5人とクラブ・メンバー1人ずつを1テーブルに、食事をしながら語り合いの場を設けた。メンバーが、将来どういう仕事をしたい? 夢は? お父さんお母さんとたくさん話をする? 就職先は決まった?と質問をしたり、生徒からの、どうして社長になったのですか? 苦労はありましたか? どんな社員を期待しますか?などの質問に答えたり。

これからいろんなことがあるだろうが、夢を持ち続け、くじけずに努力していってほしい。ワイワイガヤガヤの時間が過ぎ、「がんばれよ!」と生徒たちを送り出した。(会長/髙野惇)

茨城県・協和ライオンズクラブ

高齢者に人気のスポーツで地域交流

協和ライオンズクラブ(38人)は11月8日、県西総合公園の専用グラウンドで、筑西市と桜川市の愛好者110人を招待し、近隣ターゲット・バードゴルフ交流大会を開催した。これは羽付きのボールを普通のゴルフクラブで打つ、ミニゴルフの一種。前述の両市にはターゲット・バードゴルフ協会があって、それぞれの地区ごとに支部がある。今回はこの五つの支部から参加者を推薦してもらった。筑西市教育委員会の後援も得た。

男女のシニアとグランドシニア(70歳以上)の4区分で順位を競い、28組が各ホールから同時にスタートした。参加者は87歳の最高齢を始め、男子のグランドシニアが最も多く、高齢者とは思えないほどの好プレーが随所に出て、和気あいあいの中にも真剣なプレーで大会は盛り上がった。

男子シニアの優勝者は全日本クラスで県内でも屈指の難コースを69で回り、また、女子でも全国大会連覇の猛者がおり、レベルの高い大会となった。

今回の専用グラウンドは2年前にオープンした林間コース。県内でも高難度と言われ、難コース攻略のために県外からも来場者が訪れるほど。その影響もあって、県西地方は県内で最もターゲット・バードゴルフが盛んであると、今大会に派遣された茨城県の協会役員が話していた。おかげで今回は参加希望者が多く、人数を絞るのに苦労したと各支部長が漏らしていた。

表彰式では通常の大会より豪華な賞品が多く、お楽しみ参加賞もあって参加者に大好評だった。次回の開催を望む声も多く聞かれ、大成功の大会となった。(会長/横山浩也)

東京ウィル ライオンズクラブ

ブラインド・ゴルフコンペ開催

東京ウィル ライオンズクラブ（26人）は2002年の結成当初から、視覚障害者支援のアクティビティを続けている。点字腕時計のプレゼント、銀座での盲導犬卒業テストや卒業式への参加など。その度に感動と教えを頂く。

今年度は障害者をテーマに、視覚及び知的障害者への奉仕を中心に活動している。11月5日には、健常者と視覚障害者が大自然の中、ゴルフを通して相互理解を深めようと、茨城ロイヤルカントリー倶楽部にてブラインド・チャリティー・ゴルフコンペを開催。経済情勢が厳しい昨今、参加費を出来るだけ低料金に設定、また視覚障害者はご招待した。

ブラインド・ゴルファーの登録者は全国にいらっしゃるので、日本ブラインドゴルフ振興協会に参加メンバーの選択にご協力頂いた。ブラインドゴルフでは、健常者2人とブラインド1人、ガイド1人が組になってプレーをする。

イラスト／篠田和夫

ブラインド・メンバーは先天性の方、事故や病気などで人生半ばに視力を失った方など、それぞれに葛藤がおありだと思うが、前向きに努力され、明るく、あらゆる可能性に挑戦して参加されている。

ハンディキャップを超えて自己実現を果たされている方々と共に、緑豊かな環境で時間を共有することは、ライオンズ・メンバー自身がメンタリティーを整え、心の豊かさを取り戻す絶好の機会であると私たちは考えている。このアクティビティが今後の活動においても精神的に大きな支えとなり、向上心を失わないライオンでいられることにつながると確信している。

（会長／鈴木恵子）

埼玉県・さいたまハーモニー ライオンズクラブ

新クラブの成長を楽しむ

当時、スポンサーである浦和ライオンズクラブ会長の新クラブ結成の提案に対しても、各方面からのアレルギー反応は根強かった。なかなか同意を得られず「産みの苦しみ」を味わったが、星山春雄前地区ガバナーのご尽力により09年5月17日、約2年の歳月を要してさいたまハーモニーライオンズクラブ（現在23人）が誕生、チャーター・ナイトを迎えたのである。

以来、月2回の例会は毎回90％以上の出席率。例会終了後は、民謡界の重鎮ライオン原田直之の指導の下、全員で楽しく合唱の練習に励む。高柳俊哉会長のスローガン「時代に生き、社会と共に価値ある奉仕」の下、地域社会密着のアクティビティとして高齢者福祉事業等で披露出来るよう、全員が心を合わせて目標に向かい声高らかに精進している。歌唱力は目を見張るほどに上達を遂げており、その楽しさと言ったら、例会の日が待ち遠しくてならない。

いろいろな面でライオンズのマンネリ化が叫ばれる中、同クラブはライオニズムとは何かという原点を、新しい目で見つめている。友情と相互理解の精神を養い、実りある奉仕活動を目指し、会員増強のために楽しいクラブ活動を地域社会にPRすることを心掛ける。その成果は顕著に表れている。私もガイディング・ライオンとして「育ての楽しみ」を味わっているところである。（浦和ライオンズクラブ／吉田博晃）

東京池袋、東京豊島西ライオンズクラブ

「ふくし健康まつり」に協力

毎年12月3日～9日は障害者週間。東京都豊島区は12月6日、「第21回ふくし健康まつり」を開催。東京池袋ライオンズクラブ（若林博史会長／14人）、東京豊島西ライオンズクラブ（海老澤忠生会長／22人）がこれに参加協力をした。

前日までの冷たい雨が一転、温かな日差しに恵まれた日。会場となったのは区民センターや豊島公会堂など四つの建物と中池袋公園、及びその周辺道路。40余の組織が、模擬店や事業紹介、作品販売、健康相談、舞台発表など、さまざまな催しを繰り広げる盛大な祭りとなった。

東京池袋ライオンズクラブが行ったのはうどん、コーヒーなどの販売と、麻薬撲滅キャンペーン・カー展示による「ダメ。ゼッタイ。」普及活動。このところの芸能界での薬物汚染などの報道も手伝ってか、キャンペーン・カーには若者や子どもたちが次々と訪れ、展示やビデオに見入っていた。

東京豊島西ライオンズクラブは、「補助犬を知ろう」と題した啓発活動を実施。

補助犬とそのユーザーを招き、補助犬の仕事の紹介や実演の他、子どもたちが落とした携帯を拾ったり、冷蔵庫から水を取ってくるよう補助犬に指示するといった体験学習もあった。

障害のある人は模擬店で買い物をする際、お金の出し入れなどに時間がかかることもあるが、売り子はせかすことなく世間話などしながら応対している。狭い道や部屋では車いすが動きやすいように手近な人が協力してスペースを作る。会場ではそうしたことがごく自然に行われ、障害者と健常者が共に祭りを作り上げ楽しんでいた。そうした光景が特別な日だけのものでなく、ありふれた日常になればいい。

（取材／柳瀬祐子）

大分県・豊後高田ライオンズクラブ

献血活動で文化の日知事表彰受賞

豊後高田ライオンズクラブ（岩田忠弘会長／55人）は2009年度文化の日知事表彰を受賞。岩田会長、近藤昌徳三献委員長がクラブを代表して大分県庁で開催された授賞式に出席した。県からの表彰は昭和55年の知事感謝状以来2度目のことである。

今回は地方自治、社会福祉など11分野で貢献のあった、個人65人と9団体が選ばれた。本クラブの受賞は33年間にわたる献血活動に対して。献血にいち早く取り組んだ諸先輩方と、活動にご理解・ご協力くださった地域の皆様のおかげだと思っている。

「継続は力なり」。この言葉は一村一品運動の生みの親、平松守彦前大分県知事がよく使われた言葉だ。一つの事業を33年間も続けるのは簡単なことではない。大分方言で「よだきぃ」という言葉がある。「きつい」とか「面倒くさい」といった意味だ。ともすれば年数を重ねているうちに、「よだきぃ」の一言で事業の大切さや意義を忘れがちにもなるが、献血アクティビティについてはクラブのニューメンバー・スクールや例会において、先人たちの意志を引き継ぐべく意識の向上を図ったからこその「継続」であり、受賞だったと思う。

これからも先人たちの教えを守り、後進へ献血の意義を伝えていくことこそが、私たちに出来る「ウィ・サーブ」だと思う。

（幹事／安部尚雄）

愛知県・西尾ライオンズクラブ

カンボジアの子どもたちに支援を！

西尾ライオンズクラブ（91人）の松原誠会長のスローガンは「人を愛し、地域を愛し共にウィサーブ」。そのアクティビティ第1弾として7月18日、西尾まつりで、カンボジアの子どもたちに贈る学用品や教材、教科書の購入資金を得るために、パネル展示と共に募金活動を実施した。共に活動した地元の高校生たちは蒸し暑さの中、大粒の汗をかきながら、一生懸命大きな声で行き交う大勢の人たちに呼び掛けてくれた。新聞で募金活動を知って隣町から来てくださった年配女性もいらっしゃり、深く感謝した次第である。

続いて10月25日には第2弾、ライオンズ・デー記念チャリティー講演会を開催。華道家の假屋崎省吾氏が花を生けながらユーモアあふれるトークを展開、客席は立ち見が出るほどの盛況となった。

この2日前にカンボジアの子ども救援センターから女学生2人、先生、通訳の4人を招待し、市長訪問や名古屋市内観光、募金活動に協力してくれた高校生たちとの夕食会を行った。私たちはこの活動を通し地域の子どもたちが、厳しい環境の中でがんばっているカンボジアの子どもの現状を知り、同じアジアの同年代の子どもとして、自分たちの未来のために何かを学びとってほしいと願っている。

カンボジアから来た子たちは、初めて先進国に来た緊張のためかあまり話をしなかったが、新幹線に乗った時は興味津々、また市内で行われたお祭りでポテトフライをおいしそうに食べていたのが印象的だった。チャリティーの収益金はカンボジアの恵まれない子どもたちのために使われる。この2月にはバケン孤児院男子寮が完成、クラブを挙げて竣工式に参加する予定である。

（PR委員長／堀川晃）

沖縄県・名護ライオンズクラブ

小学生バレーボール大会を盛大に開催

名護ライオンズクラブ（中村秀樹会長／40人）は11月21、22日の両日、名護市21世紀の森体育館と名護小学校体育館を会場に、「第1回名護ライオンズクラブカップ・北部小学校バレーボール大会」を開催した。これまで17年間にわたりこのバレーボール大会を主催されてきた方が逝去し存続が危ぶまれていたものを、引き継ぐ形となった。

我々は、バレーボールを通じて青少年の体力増進並びに技術向上を図ると共に、地域の子どもたちの交流を深め、健全育成に寄与するという大会趣旨に賛同したのである。県内では昨年、中学生の暴行により一人の尊い命が失われるというまことに痛ましい事件があった。当クラブでは学校機関やPTAとは異なる組織として、青少年育成に一層積極的に取り組んでいくつもりだ。そのためにもこのバレーボール大会をクラブの中枢を担うアクティビティとして充実と発展に努めたい。

今回は6年生の部で男子5、女子18チーム、5年生以下の部で男子2、女子12チームが出場し、白熱した試合を繰り広げた。6年生の男女優勝チームには新調した優勝旗と、楯、メダルを、5年生以下の男女優勝チームには楯と賞状を、中村会長から授与した。

（姉妹クラブ推進委員会／海老原万道）

神奈川県・厚木さつきライオンズクラブ

廃食油をディーゼル燃料に

厚木さつきライオンズクラブ（43人）は10月4日、「地球環境を守ろう」と呼び掛け、厚木市内で調理に使った廃食油の収集活動を行った。ライオンズ・デーの一斉奉仕に環境保全事業をと検討していたところ、メンバーが敷地を提供している工場が、廃食油をディーゼル用燃料に精製していることを知り、今回の実施となった。

ライオンズ・デー当日にはメンバー及び一般の方々から、約500㍑の廃食油が収集された。飲食関係のメンバーは何本もの一斗缶を持ち込み、それをドラム缶に移すという慣れない作業で大わらわだった。収集した油は精製して、厚木市の公用車の燃料として使用される。

後日、この事業を知った何人かの方たちから「処分に困っているので引き取ってほしい」という要望があった。そこで環境保全委員会は次年度からこれを通年事業として、毎月定めた日に収集出来るよう計画している。

クラブ・メンバーらは、自分たちの手で直に環境浄化に携われることに喜びを感じている。この事業についてはタウンニュースにも紹介された。今後、市民とこの喜びを共有し、一緒に取り組んでいきたいと期待を膨らませている。

（会長／山口重治）

岡山県・津山衆楽ライオンズクラブ

衆楽園池に1年ぶりに鯉が戻った!!

津山衆楽ライオンズクラブ（田口博会長／20人）は環境保全事業の一環として津山市山北の国指定名勝・衆楽園に錦鯉を贈ることになり、10月15日放流式を行った。

昨年11月、衆楽園池の鯉がコイヘルペスウィルス病と診断され、ウィルス拡大防止のため349尾すべてを処分するという残念な出来事があった。以来、市民や観光客から、池が寂しくなったという声が多く聞かれるようになっていた。そこで当クラブでは、再び池に鯉を放し以前のにぎわいを取り戻せればと、今回、色鮮やかな錦鯉を贈ることにしたのである。

式では田口会長が桑山博之市長に目録を贈呈、メンバーらと共に除幕をして放流を祝った。その後、地元・作陽保育園の年長組31人の協力で、池に大小さまざまの錦鯉35尾（20～65㌢／紅白、大正三色、昭和三色、白写り、白別甲、赤無地、他）を一尾ずつゆっくり優しく池に放した。

初めて鯉を間近で見る子が多かったようで、びっくりする子、恐る恐る触る子、豪快に勢いよく放す子などさまざま。「元気でね、大きくなってね」と声を掛けていた。

ゆったりと優雅に回遊する錦鯉の群れを見ることが出来、子ども連れの家族が餌をやる姿が戻ってきた。管理する津山市公園緑地課は病気予防のため、放流禁止の注意書きを表示した。鯉が元気に育ってくれることを願っている。

また、このアクティビティはテレビや新聞、インターネットでも紹介され、ライオンズクラブについて大いにPRすることが出来た。（PR・情報・会報編集・インターネット委員会）

千葉九十九里ひまわりライオンズクラブ

心臓病「まおちゃん」への募金活動

千葉九十九里ひまわりライオンズクラブ(22人)は2008年5月の結成以来、初代会長の「集めよう、奉仕の心と、奉仕の汗」をスローガンに、中国四川省大地震駅頭募金、白血病の清水健吾君へのうちわ募金を実施してきた。今回は重い心臓病で海外での移植手術を目指す、千葉市在住の山口真生ちゃん(4歳)を救う会のお手伝いをした。

スポンサーの大網白里ライオンズクラブと共に、6月12、16日にJR大網駅で全員で募金活動。その後、渡米に必要な額に足りていないことを知り、更に7月4、5日に買い物客でにぎわう大網ジャスコ前で再び募金を呼び掛けた。

幼いまおちゃんを我が子のように思い、少しでも役に立ちたいと走り回り、事業所、お店、知人に頼み、募金箱を設置してもらった。

駅頭募金の時は、県立大網高校の女子生徒からぜひお手伝いをしたいと申し出があり、学校の始業時まで一緒に募金を呼び掛けてくれた。せわしない時間帯に心からの笑顔で協力してくれた生徒たちに、クラブから感謝状を贈呈した。

募金くださった方々からは「ご苦労様、がんばってね」と声を掛けて頂き、やりがいを感じた。

例会で、集まった募金額が100万円を超えたという報告があり、会員から感激の声が上がった。やれば出来る!という達成感に一同満足している。

8月、まおちゃんは予定通り渡米、10月に移植手術が成功、今は順調に回復に向かっているという。私たちも心から喜んでいる。がんばれ! まおちゃん。元気な笑顔で日本に帰って来てください。(PR委員長/佐々木彩乃)

静岡県・三ケ日ライオンズクラブ

葦の植栽と刈り取り

三ケ日ライオンズクラブ(坂口嘉久会長/33人)が位置するのは静岡県西部、浜名湖に面した風光明媚な土地。この地域では「浜名湖をきれいな湖にしよう」を合言葉に、小中高校や地域住民らによって湖岸清掃などが実施されている。当クラブでも浜名湖の自然をいかにして守り、未来の子どもたちに残していくかを考え、清掃等の活動を行ってきた。そして2007年、葦の植栽アクティビティを開始したのである。

葦は三ケ日川河口付近で採取。足場が悪く作業は大変だったが、コンテナを持参したり軽トラックを配車するなど、皆で分担、協力して成し遂げた。これを、浜名湖の釣りポイントでもある地元・津々崎半島の湖岸へ植栽したのだが、あちこちにゴミや釣り人の捨てたビニールなどが散乱していて、まずは片づけに相当の時間を要したものだ。

そして09年10月31日、葦の刈り込みを実施した。2年余りを経て葦は一面に根付いて成長し、その浄化作用で湖も奇麗になってきた。この日は刈り込みだけで半日を費やす大仕事、更に散乱していたたくさんのゴミを除去。すっかり奇麗になった湖を前に、充実感が苦労を吹き飛ばしてくれた。

葦の持つ自然の力によって浜名湖が浄化されるのは大変良いことだ。今後も植栽を続けていきたい。ただ、次回は葦が広がって枯れた状態になったら刈り込みと片づけをもっと迅速にしようと思う。

汗を流し地元に愛される奉仕活動に取り組む当クラブ。地域の子どもたちも巻き込んでさまざまな活動に積極的に取り組んでいきたい。

(幹事/益田典文)

埼玉県・大宮シニア ライオンズクラブ

「幼児を持つ母の集い」を続けて

大宮シニア ライオンズクラブ（大橋伸二会長／19人）ではシニアならではの経験を生かした奉仕活動として、「幼児を持つ母の集い」を続けてきた。さいたま市及び教育委員会の後援を得ているが金銭的な支援はなく、すべて手作りで行っている。自作のリーフレットを幼稚園や児童センターなどに置いて頂き、参加者を募集する。

第11回目となる今回は市内の文化センターで、26人のお母さん方が四つのグループに分かれて話し合いを行った。各グループには、人生の先輩としてクラブ・メンバーが一人加わり、時に応じて適切なアドバイスを行って大変喜ばれた。お母さん方は日頃の悩み、ストレス、疑問、体験などを活発に話し合い、時には笑い声も上がるほどであった。

参加者の年齢構成は若く、20歳代が77％、30歳代が19％。子連れでも出席出来るように託児室を設け、専門の保母さん2人にお世話頂いて、お母さんたちが話し合いに専念出来るように計らった。

話し合いが終わると、各グループの代表からそれぞれのまとめを発表してもらった。いずれも日常の切実な悩みと解決法、相談相手、家庭内のことなどが率直に語られていた。グループ討議に先立って、日頃、幼稚園でリーダーとして活躍している一人の母親から問題提起をして頂いたことも効果があった。

実施後のアンケートでは参加者全員から、この集いが今後の子育てに大いに役立つという回答が出されていて、私たちにとって何よりもうれしいことであった。今後もシニアの特性を生かしたアクティビティを行っていきたいと考えている。

（事業実行委員長／新井一裕）

茨城県・下館シニア ライオンズクラブ

バザーの収益でカラクリ音楽時計寄贈

下館シニア ライオンズクラブ（石井哲雄会長／33人）は毎年バザーを行い、その収益金で市内公共施設や小中学校にカラクリ音楽時計を寄贈している。

バザーは当クラブが、県西生涯学習センター主催の生涯学習フェスティバルの協賛団体として実施しているもの。今年は10月4日に開催され、会員持ちよりの日用品や手作りの無農薬野菜などを販売した。特に野菜は大人気だった。

当クラブ会員は元県職員や教師などで、農業を始めたのは全員が退職後。習得した知識や技術を相互に伝授し合いながら農作業に励んでいる。暑い夏には雑草や病害虫の駆除に汗を流し、半年以上手塩に掛けて収穫する。会員の努力と汗の結実である。

そうして作った野菜の販売は良い品が安く買えるという評判で、今では開店前からテント前に人だかりが出来るほど。今年は会員27人が売り子に徹して販売したが、客がひっきりなしに訪れて、山積みされた品物は飛ぶように売れ、予定時刻を2時間も前倒しして午後1時に完売。収益金は10万４０８1円になった。

この収益金で購入したカラクリ音楽時計を、今年は筑西市立養蚕小学校に贈呈した。時計は直径約60センチ。正時になるとメロディと共に人形が文字盤に現れる仕掛けになっている。11月16日に校長室で行った贈呈式で石井会長が、青少年健全育成を願って寄贈したこと、時間を守る生活をしてほしいと伝えた。児童代表からは「みんなが見える場所に置いて大切にしたい」とあいさつがあった。

当クラブは95年の市役所を皮切りに、26カ所にカラクリ時計を寄贈してきた。この実績を誇りに思っている。

（幹事／中澤功一）

福島県・石川シニア ライオンズクラブ

3役の平均年齢は83歳

石川シニア ライオンズクラブは２００4年4月、石川ライオンズクラブのスポンサーによって誕生した。当時、石川ライオンズクラブのメンバーは30人だったが、会員の若返りと組織の活性化を図るため、70歳以上の15人が転籍して、東北で最初のシニアクラブを結成したのである。結成時の会員数は新会員7人を含む22人。初代会長には矢内芳夫元地区ガバナーが就任した。

昨年9月には5周年記念式典を開催。会員は26人に増え、平均年齢79歳の県下一の高齢クラブとなった。なお、今年度3役の平均年齢は83歳で、これは日本一ではないかと思っている。

それでも気分はまだまだ70代。新会長の下、「愛と笑顔で楽しい例会」をテーマに、シニアらしい奉仕活動をと張り切っている。月2回、町内の2会場で交互に開催される例会の後は、楽しい懇親会だ。「晩酌会」と称されるこの会、毎回90％の出席率を誇っている。

一方スポンサーの石川ライオンズクラブは08年4月に40周年記念式典を、そしてこの程千回記念例会を行った。6年前、当クラブ誕生に当たり減少した会員も現在は30人となり、親子クラブで共に地域に密着した奉仕活動を展開している。

私たちの石川町は人口1万8千人を有する緑豊かな歴史ある城下町。町にはゴルフ場が二つあり、両クラブともゴルフ愛好家が多いため、ゴルフを通じての親睦も深めている。シニアクラブの中にはこれまでに、ホールインワンを達成した会員が5人、エージシュートを達成した会員も2人おり、町の話題になっている。　（幹事／岡部良）

熊本県・免田ライオンズクラブ

第1000回特別例会開催

黄金色の稲穂が波打ち、今年も豊作の期待が高まる9月16日、免田ライオンズクラブ（成合勝博会長）の第千回記念例会を開催した。第7ゾーン4クラブのメンバー、ライオン・レディー、それに野村民夫337‐E地区ガバナーを始め地区役員、地元・あさぎり町長らを来賓に迎え、総勢95人の盛大な式となった。当クラブには現在チャーター・メンバー3人、女性会員4人を含む52人の会員がいる。田舎クラブではあるが結成県下13番目という歴史を背に、会員増強にも力を注ぎ、着々と奉仕の実績を挙げている。

当日は記念例会の後、祝宴ではメンバーが指導している少年空手術の型の披露に感嘆。またクラブのチャーター・ナイトから10、20、30、40周年を収めた20分間のDVDを上映した。ごちそうを頬張りながらの楽しいひと時となった。この記念に、青少年育成委員会から人吉球磨少年野球大会に新しく優勝旗を贈呈し、毎年大会を助成することにした。更にキャビネットに少年空手部助成と三献運動のための金一封を贈呈した。

11月8日には千回記念例会の一大イベントとして「臓器移植」をテーマに講演会を開催。昨年度、臓器移植法案が改正されたのを受けての勉強会だ。今後、ドナー募集を継続アクティビティとして行っていくつもりである。

我々はこれからもウィ・サーブの道を歩み続けたい。

（PR・IT委員長／桑原康隆）

大川市のシンボル·筑後川昇開橋

清廉な石に永遠への想い込めて

ゆったりとのどかに流れる筑後川本流の川沿いに建つ「石の山本」。
世界から集められた銘石を磨き、刻み、魂を彫り上げる
石の達人たちのワークスペースがここにあります。

山本正廣

337-A地区ガバナー

福岡県·大川ライオンズクラブ

〒830-0211福岡県久留米市城島町楢津1278番地

TEL：0942-62-6100

FAX：0942-62-5687

フリーダイヤル：0120-14-8287

http://www.inori.co.jp/

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領→56ページ

楽しさの原点はどこに？

渡邉　和美（大分県・別府中央）

「楽しくなければ例会ではない、会長は楽しさの創出に努めるべきだ」

言い古されたこの言葉に、新任の会長は知恵を振り絞って例会を演出します。しかし、わずか1時間のうちに盛りだくさんの承認・報告事項をこなした上だから、思うような結果が得られず、そうこうしているうちに1年の任期が終わってしまいます。

「楽しい例会って何？」

このフレーズが永遠の課題のように、会長のなり手に重くのしかかり、副会長の2年間を苦渋の席にするのです。

「楽しさ」とは主観的なもののはずです。会員が、一様に楽しいと感じる演出とかノウハウというものはあるのでしょうか。会員の過半数が有意義な例会と認めれば成功でしょう。

「樂」の字源は、木の両端に糸を張り、爪(白)弾いて楽しむことからきていますが、例会の冒頭から国歌やいろんな歌で始まるのは、和みと楽しみのためなのに、マンネリになってはいませんか。張りのある大きな声で、歌詞の記憶を頼りに合唱する感動、流行歌ならさまざまな回想が浮かぶのに、例会ではどうして出来ないのでしょう？

幹事の司会や会長あいさつに、どれほどの工夫や準備をしているか、会員を飽きさせず時間通りに進行させる執行部のチームプレーとその努力、たまのゲスト卓話は時宜にかなう選択で、例会が待ち遠しいといったらいい過ぎですか。しかも恒例になった新年と期末のゾーン内合同例会は、アトラクションなど別の楽しみもあります。

楽しさと言えば、テール・ツイスターの活躍にも期待する面はありますが、会員の職種や人柄のニュアンスそのものにも、既に汲めども尽きせぬ味わいがあると思います。例会や四季の移ろいに会うだけでも楽しみですが、お互いに年をとりながらも元気で交歓出来るのが嬉しいものです。

「人」はTPOで変幻自在、モチーフにこれほど絶好なものはありません。毎月会えることに感動します。楽しみは与えられるものより、自分で探求するプロセスにあると思うのですが、いかがでしょう。皆さん

イラスト／小川和政

には、会員という宝の山が見えませんか？
　役員各位が例会を盛り上げようとする努力、これに応えて進行に協力する会員との共同作業で、オーケストラの指揮者と団員のような成果が挙がった時、それを楽しいと感じない人がいるでしょうか。「楽しさ」はその人の主観によることを再認識する次第です。

観自在

横田　芳昭（京都府・舞鶴）

　釈迦の教えをまとめた般若心経で、冒頭に出てくる言葉が「観自在」である。釈迦は「人生は知識や判断力、思考力など、左脳の思いのままには決してならない。しかし、人生は『観』（思い）のまま自由自在である」と説いている。
　観とは、喜びや、笑い、愛、性、希望などの積極的感情や、恐怖、嫉妬、激怒、悲しみなどの消極的感情など、右脳が司る本音の思いである。観は、自分の頭でコントロール出来ない潜在意識に刻まれている。
　人間は意識出来る自分を唯一の自分だと思っているが、意識出来ないもう一人の本音の自分がいるのである。犯罪的な行為を犯す人には、もう一人の本音の自分（潜在意識）がいて、そのような行動を取っている。近年まで科学的根拠は明らかでなかったが、心が科学でとらえられるようになった。
　成功者と凡人の分かれ目は、努力の量ではなく観の在り方である。喜びを源としながら努力を続けているのが成功者で、一方、凡人は苦を源としているため成功に至らないのである。人生は努力や勤勉など以上に、大切なのは観である。
　人間はどんな環境、状況であれ、喜びの観が幸福を、苦の観が不幸の現象を引き寄せる。いつも怒ったり、強いストレスを感じていると、脳からノルアドレナリンという毒性のホルモンが分泌されて病気になる。逆に、喜び笑うと脳内モルヒネが発生し、どんな病気でも自己治療することが医学的に証明されている。
　ライオンズクラブは、先人たちのすばらしい観で、業績を残し発展してきた。今後も会員の奉仕活動の本音の観が喜びの活動であれば、必ずライオンズクラブは発展すると考える。
　メルビン・ジョーンズは、「人のために尽くせば、それは何かのかたちで返ってくる。そして報酬をあてにしない陰徳を積めば、人は必ず精神的肉体的健康を得る」と。全く「観自在」である。
　人間の心臓は1日10万回動いている。いっときも休まず寝ている時も無意識に動いている。これは自然の法則で動いている。人生の成功者は、大自然の法則で生かされていることを語り、すべてに感謝し、喜び、自分のためでなく、人のために生きて、何の不足も感じない。人間の心も体も自然宇宙が創造してくれたものではないだろうか。科学は物質世界がすべてであると考えてきたが、研究が進み、ミクロの世界では、物質も意識も同じ性質の波動であることが分かってきた。つまり、人間にも宇宙意識が宿っているのである。
　潜在意識が高次元の世界で開くと宇宙意識と共鳴して情報をゲットし、大発見や大発明が出来る。昔からヨガや密教、古神道などで瞑想が行われてきたが、現代では、右脳のイメージ・トレーニングによる瞑想法や呼吸法（シータ波）の研究が進んで、いろんなところで成果を上げている。
　資本主義経済の競争社会は、知識（左脳）

が重視され、あまりにも争いごとが多い。すべての社会が右脳の価値を検討する時代と考える。

例えば教育について、これまでの教育は競争原理による教育で左脳による教育である。左脳は競争と対立、ねたみ、そねみの世界。自分だけよければいい、他人より優位に立ちたい、という世界だ。これに対して右脳教育は心の教育で、一体感、協調、愛と平和の原理による教育である。今までと同じ教育では、子どもは無垢な心ではなくなっていく。右脳の世界から左脳の世界へと沈み込んでいくのである。

それを防ぎ、右脳へ引き戻すのが、右脳教育。愛の心がないと右脳は開かない。親が子どもを信じ、子どもを認め、子どもと一体感を得るようになると、不思議な能力を示すようになる。右脳教育は愛である。

◆

最後に、あなたは左脳を主に使い、右脳の宝はあまり使われていないはずです。右脳を開けば、あなたの人生は劇的なすばらしい変化が訪れるでしょう。期待致します。

「今」に生きる

西本 五郎（広島県・安芸）

「秋の夜　杖をたよりの　老二人」
「オイ」と呼び「ハイ」と答えて65年。

私は去る9月4日、満91歳の坂越えを果たしました。

91年という長い人生においては、軍人としてのお勤め約5年を始め、蒙古連合自治政府の公務員をして、終戦後は高等学校の再建に次いで、大学、短期大学の創設、学校法人広島国際学院の充実発展と、まさに波乱万丈に満ちた日々の営みを尽くしました。

その間、私事では昭和19年5月に学園創立者の娘敏子と結婚し新家庭を持ちましたが、不幸にも敏子は親友と共に昭和45年8月、国鉄芸備線との衝突事故で亡くなりました。悲しく残念なことです。一人暮らしの1年後、昭和46年9月に現在の妻紀子と再婚しました。

敏子との生活約26年、紀子との生活約38年。まさに「オイ」と呼び「ハイ」と答えて、結婚生活65年です。

思うに、私の今日があるのは、多くの方々との一期一会のお励ましとお支えのたまものと考えています。

ありがたいことです。唯々感謝合掌あるのみです。従って90歳を超えた現在では、死への恐怖感は全く存在しません。死を快く受け入れて祖父母や父母、先妻の眠るお墓に仲間入りするつもりでいます。

道元禅師は、「まだ見ぬ未来を思い煩うな、過去をくよくよ思い煩うな、あるのはただ『今だけ』、今を懸命に生きよ」と諭してくださっています。

私は現在、学校法人広島国際学院名誉教授、理事として、毎週月曜日、法人本部の学院長室に出掛け、理事長、学長、校長、

先生たちの相談相手の仕事をさせて頂いています。

ありがたいことです。

その他、地域の社会奉仕の仕事や、安芸ライオンズクラブの名誉会員（在籍48年）として、ささやかな社会奉仕に貢献しています。

12年前、胃がんの手術をし、とにかく健康は不調気味ではありますが、「人には自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる」の教えに従い「老病死」と闘いながら、余命の続く限り、今日一日が最後の思いで「今」を懸命に生きてゆく覚悟であります。相変わりませぬお支えとお励ましをこいねがうものです。

獅子吼

インディ32　秋色の北海道へ

田崎　登保（宮崎県・日向）

ついに2度目の北海道が回ってきた。前回は2001年、まだ現役ガバナーの中、全日本のガバナー会議として招集され参加したのが初めてで、その後毎年、担当の複合地区のメンバーのお世話により計画されており、今年9年目にして一巡した後、2回目の北海道である。

目的地は世界自然遺産として登録され、今人気の知床半島と昨年サミット会議が行われ、G8の宿舎となった洞爺ウィンザーホテルに泊まる2泊3日の旅である。

集合は知床半島の近く中標津空港。まずはこの地名読めるだろうか。「なかしべつ」。

北海道の地名はアイヌの人たちのつけた地名。アイヌには文字はなく、その発音に日本の漢字を音に合わせて充てたものだという。バスガイドがそのいくつかを説明してくれたがこれは序の口であった。

もともと32人のガバナーとご夫人で当時63人の会だが、今回参加者は19人になってしまった。平均年齢で喜寿あたりの会員が多くなり、やむを得ないのかもしれないが、毎年寂しくなってくる。

今回の幹事役は331・A地区の竹内武司、美奈子ご夫妻。早速、バスにて根室海峡を右手に見ながらサケの本場、標津へと向かう。

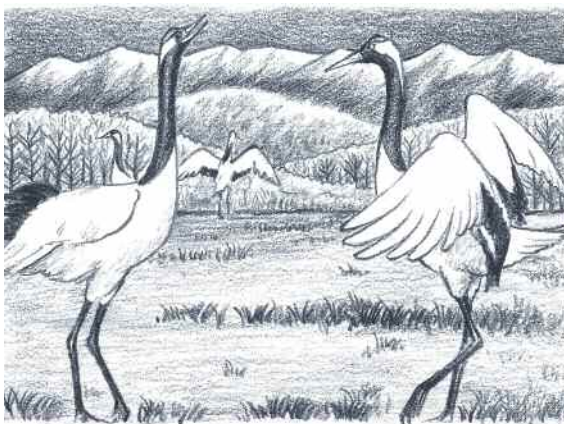
根室海峡を挟んで北方領土の国後島がかすんで見えている。その距離およそ20キロ、まさに手の届く距離だ。日本固有の領土であったものが、ロシアに占領されたまま変換されない島だ。海峡を挟んで何かと紛糾する。

私たちは日頃忘れ気味なのだが、こうして間近に朝に夕に眺めなければならない人たちには、消しきれない悔しさと寂しさがあるだろうと思う。その海が、自然の恵み豊かな海域だけにひとしおのものだろう。

それにしても北海道は雄大だ。20キロにわたって直線で見通せる道路。そして豊かな実りの時を迎えた農場は、1戸当たりの面積が平均で30町歩だとか。

それぞれの県別に集団で入植されたらしいが、開拓可能な土地はまだまだたくさんありそうだ。今後温暖化が進んで、北海道で年間を通しての耕作が可能になれば、日本の食糧自給の問題は解決すると言われているが、実感としてそれを感じる広大な農場が広がっている。

だし昆布で有名な羅臼の町を過ぎて、根室海峡を後ろに知床半島を乗り越える知床横断道路をオホーツク海側へ。この峠道は11月半ばには雪のために閉鎖されるとのことである。

残念なことにヒグマには遭えなかったが、キタキツネと数頭のエゾジカには遭遇することが出来た。運が良ければ、羽を広げると2メートル超にもなるオジロワシが、悠々と飛

翔するのも観察出来るという。さすがに世界自然遺産の雄大な自然を感じることが出来た。

そしてウトロにある知床グランドホテル「北こぶし」にて最初の宿泊となり、久しぶりのメンバーとカニ、サケ、ウニ、イカなどの北海道の味覚でゆっくりと旧交を温めることが出来た。

2日目は、ウトロ港から観光船オーロラ号にてオホーツク海側から知床半島を探勝。人の進入を拒む断崖絶壁の続く海岸やサケ漁のための定置網を見ながら1時間半の航海を楽しむ。

その後はバスにて、斜面を流れ落ちるオシンコシンの滝などを見ながら斜里町を経由して網走へ。網走市内での昼食は、オホーツクの海の幸たっぷりの寿司と旬の魚キンキの焼き魚を楽しませて頂いた。

市内にある天都山の展望台に上り、網走刑務所や能取湖など、360度のパノラマを案内された後、バスにて女満別空港へ向かい、新千歳空港へと40分ほどの空の旅。

新千歳からは再びバスにて支笏湖、ニセコと呼ばれる羊蹄山、そして洞爺湖を経て夕闇の中、洞爺ウィンザーホテルへ到着。さすがにお城と表現するのが適当と思える豪奢なつくり。部屋もジュニアスイートというクラスの、かなりゴージャスな広さと調度品で少しセレブ気分に浸る。

翌朝、思いがけず通り雨がきたが、その後出現した久しぶりに見た鮮やかな虹は、今回の旅の忘れられない思い出となった。

チェックアウト後、有珠山や昭和新山を経て登別温泉街で昼食。あとは高速道路で新千歳空港に向かい今回の旅行もお開きとなった。

それにしても広い北海道。年の割りに少し欲張った行程だったようで、バスと飛行機での移動続きの旅行であった。

そして順番で、来年は私の幹事役で宮崎にと決定した。そうなれば来年は神話の国宮崎を基本に、宮崎観光ホテルに連泊し県南と西都市をじっくりと見てもらおうと企画を温め始めている。

これから先、何年続くか分からないが、9年前、インディアナポリスにて出会い、時間と夢とを共有してきた仲間との触れ合いは、私の人生の大きな宝物。今後とも大切に守っていきたいと思っている。

お世話になった皆様と、こんな機会を頂いたライオンズクラブに感謝。

Close up U50

人との出会いにより世界が広がった

【入会のきっかけ】チャーター・メンバーだった父が59歳で他界した後、当然のようにお誘いを受け、忌明け後に入会させて頂きました。33歳の時です。

【入会してみて】中学生まではクリスマス家族会などに出ていたので、ライオンズ自体は知っていましたが、何をしているかまでは知りませんでした。入会2年目にクラブのホームページを立ち上げ、この時、周年記念誌をたどってクラブの歴史や父がやっていたことを知り、クラブへの愛着が生まれました。

【ライオンズで得たもの】クラブとしてのホームページは332-A地区では初めてだったらしく、翌年度、いきなり地区のＩＴ委員長に指名されました。結局、こちらもホームページ作りが主な仕事だったんですが、全地区のサイトを検索したりして手探りで進めるうち、全国のＩＴ関係者とメールでやりとりするようになり、一気に世界が広がりました。中でも、当時335-A地区のＩＴ委員長をされていた湯浅（利弘）さんには、ライオンズでの活動の仕方などＩＴ以外のことも学ばせて頂きました。

その後、２００５年に仙台でＯＳＥＡＬフォーラムが開かれた時、組織委員会のはからいでいくつかのミニ・フォーラムが行われました。ネット上で交流していたＩＴ関係者も、「ＩＴパワーアップ・フォーラム」として、この企画に参加することになり、地元の332複合地区ということで、私も事務局長をお引き受けしました。これは全国から24～25人のメンバーが実行委員会に加わり開催されたんですが、当日のフォーラムは大成功、また前夜祭や打ち上げもあり、ライオンズの友愛と可能性を感じることが出来ました。この方たちとは今もお付き合いがあり、こうした人との出会いが、ライオンズにおけるいちばんの財産だと思っています。

【今後の抱負】地区のＩＴに関しては、その後もずっとかかわっているんですが、ほぼ落ち着いた感があるので、今後は原点に返ってクラブのアクティビティを見直したいと考えています。個人的にはライオンズクエストに興味を持っていて、まずはプログラムの概要を知ってもらうお手伝いから始めたいですね。それと、会員数が減ってきているので、合同でアクティビティや資金獲得事業を行うなど、ゾーン内のクラブが連携して活動出来るような素地作りをしていきたいと考えています。

【三橋一三会長から】世界に広がるライオンズにとって、ネットの重要性は言うまでもありません。ライオン小山内は先見的にクラブのホームページを立ち上げ、332-A地区のＩＴ化を先頭に立って推進してくれました。今後も若手会員の中心となり、我がクラブと世界のクラブの距離を縮める架け橋となって頂きたい。

■小山内金弥

おさない・きんや　1965（昭和40）年7月13日青森県生まれ。2000年3月木造ライオンズクラブ（現つがるライオンズクラブ）入会。02-03年度、07-08年度332-A地区IT委員長、03-04年度クラブ会長、06-07年度ゾーン・チェアパーソン。㈱おさきん代表取締役社長。
http://www.osakin.com/

写真・構成／鈴木秀晃

※Close up U50（Under50）は50歳未満の若手会員に焦点を当てた企画です。
クラブに当欄で紹介したい若手のホープがいらしたらご推薦ください。

つがる市内にある自社のアンテナショップで

ippin おすすめの

第6回　高知

◉

はらんぼの塩焼き

「高知のｉｐｐｉｎを教えてください」（編集部）。「高知にはおいしいものがたくさんあるき。肉なら土佐ジローと土佐はちきん地鶏、魚では宗田節、はらんぼとちちこ、野菜はりゅうきゅう（蓮芋）にチャーテ（はやとうり）と四方竹、果物は水晶文旦。あとは山菜寿司も」（ナビゲーター）。「そこを何とか一つに……」（編）。ナビゲーターが数ある自慢の食材の中から選んでくれたのが「はらんぼ」。鰹のハラミで、マグロで言えばトロの部分だ。

土佐と言えば、「龍馬」そして「鰹」。鰹の消費量は日本一で、全国平均の5倍とも6倍とも言われる。定番はニンニクやネギをたっぷり乗せたタタキだが、鰹をこよなく愛する高知では身だけでなく内臓も味わい尽くす。よく知られている酒盗は胃と腸を塩漬けした珍味。「盗まれるように酒がなくなっていく」とか「酒が無くなったら盗んででも飲みたくなる」と言われるが、酒の肴としては、はらんぼの塩焼きも負けてはいない。ほどよく脂が乗って濃厚な味わいのはらんぼ。「キリっとした土佐の地酒と相性ぴったり。たまりませんよ」とナビゲーター。写真はナビゲーターが校長を務める料理学校の先生が焼いてくれたもの。さすが品良く仕上がっているが、家庭ではもっと豪快に、香ばしい焦げ目がつくぐらい焼くのだそう。

鰹の珍味にはもう一つ、知る人ぞ知る「ちちこ」もある。こちらは心臓で、塩焼きにしたり、生姜醤油で甘辛く煮付けて食べる。「はらんぼ」も「ちちこ」も本来は漁師料理。以前は一般に出回ることは少なかったが、今では居酒屋のメニューにも登場し、真空パックでお土産用に商品化もされている。

ちなみに、ナビゲーターが最後まで頭を悩ませたもう一つのおすすめ食材は土佐はちきん地鶏。脂肪が少なく鶏本来の旨味を味わえるこの地鶏は高知県畜産試験場が10年前に生み出した。吉野川の源流地域にある人口500人の大川村で「日本一小さな村から、日本一うまい鶏を」と育まれている。

●今月のナビゲーター

三谷英子

高知桜ライオンズクラブ。93年チャーター・メンバー。95年度クラブ会長。05年度ゾーン・チェアパーソン。(学)三谷学園RKC調理師学校校長。県産食材の育成、普及に力を注ぐ。

ふるさと探訪

佐賀市

晩秋の青空を彩るのは田園風景に咲くバルーン

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

世界のバルーニストが集結する「SAGA」の国際大会

午前6時、嘉瀬川の土手に接するとある駅。この時間にしては珍しいほどたくさんの人々が下車した。人の群れが向かう先はまだ薄暗い河川敷。川に沿って広がる空間には、イベント用の特設テントがずらりと並んでいた……。

ここは、佐賀平野一帯で繰り広げられるアジア最大級の熱気球イベント「佐賀インターナショナルバルーンフエスタ」のメーン会場。早朝からの人の波は、大会が開催される5日間だけ出現する臨時駅「バルーンさが駅」の利用客で、午前7時から始まる熱気球（バルーン）による競技を観戦しようと集まった人々だ。

このフェスタは、インターナショナルの名の通り、毎年世界中から100機を超えるバルーンが集結するビッグイベント。秋空に色とりどりのバルーンが舞う姿はすっかりこの時期の佐賀を彩る風物詩となっている。前身は、1978年、福岡県朝倉市（旧甘木市）で始まった小さなバルーンミーティングだが、2年後の80年から開催場所を佐賀平野に移し、競技大会としての歴史をスタートさせた。

「80年11月23日、14機のバルーンが嘉瀬川河川敷から飛び立つと、稲刈りを終えた佐賀平野の空に浮かぶバルーンをひと目見ようと約3万人が詰めかけました。後にSAGAの名は世界中のバルーニストたちが知ることになりますが、すべてはこの14機から始まりました」

とは、大会の発展を見守り続けてきた佐賀バルーンフェスタ組織委員会会長のライオン水町博史（佐賀ライオンズクラブ）。

ご存じの通り、バルーンは風に逆らって飛ぶことは出来ない。また、風より早く、もしくは遅く移動することも出来ない。空気を暖めて上昇し、冷めれば下降するというシンプルな飛行原理で、風に乗り自然に逆らわずゆったりと飛ぶ乗り物だ。だから、離着陸のための十分なスペースと安定した気流、それでいて高さによってさまざまな向

バーナーで熱気を送り込み、バルーンをふくらませる

炎によってライトアップされたバルーンが河川敷に整列。昼間とは違った表情を見せる

上空から眺めた佐賀平野。田と田の間にクリークが流れているのが分かる

きの風の層があることが求められる。
「バルーンは風任せ。どこに降りるかは風のみぞ知る、です。だからフライトエリアに適した場所は360度『何もない場所』があること。佐賀平野は、稲刈りシーズンが終わり11月下旬に麦が撒かれるまでの間は『何もない場所』となります」（ライオン水町）

気流も安定した佐賀平野の空は、バルーンの国際大会には理想的な土地なのだという。08年までに延べ938機、3900人の選手やクルーが参加しているこの大会も、今回で節目の30回目を迎えた。

縦横に走るクリークが、佐賀平野の米作りを支えてきた

開催の可否も、競技内容もすべてが「風任せ」

バルーン競技が行われるのは、1日のうちでも気流が安定している早朝と夕方。日が高くなったり、低くなったりして気温が変化する際、風が起こりやすくなるが、この風こそがバルーンの大敵。バルーン競技はとにかく天候に左右される。選手やクルーはもちろん、大会スタッフでさえ、直前まで競技が行われるか否かは分からない。競技開催の可否を最終的に決断するのは競技委員長。競技当日、気象台などから発表される天気予報などをもとに、

天気や風の状況で判断する。風向きや風速などを考慮して競技内容もこの時に決められる。

全部で19種目ある競技は、そのほとんどが移動の速さを競うものではなく、一定の時間内で操縦の正確さを競うもの。ゴールである「ターゲット」へ向かって数キロ先からバルーンで接近し、マーカーと呼ばれる砂袋を投下するのが競技の基本。ターゲットとマーカーの距離で優劣を決める。1度のフライトで2～3の競技が行われることもある。大会最終日の午前の部、5～7キロ離れた場所から飛び立ったバルーンが、メーン会場の上空を通り、大会本部が定めたゴールに三つのマーカーを落とす競技が行われていた。風任せで何キロも先からゴールを目指して飛んでくる操作技術もさることながら、ゴールのすぐ横にマーカーを落としていくそのコントロールに卓越した技を感じる。

メーン会場では、バルーンが地表すれすれに飛ぶエキサイティングなシーンもたまに見られるが、会場に出向かなくても、佐賀平野の比較的広いエリアでバルーンの飛行や離着陸を見ることが出来る。

漏斗（じょうご）造りの家屋（山口家住宅）

クリークに自生するヨシは屋根を葺く材料にもなった。筑後川河口近くの干拓地で多く見られた漏斗造りの家屋は、その屋根が口の字型になっており、雨が屋根の中央に集まるという特殊な構造をしている。藩令で身分によって梁の長さが制限されたとか、この地方特有の潮風によって高潮に襲われるのを防ぐためにこうした形になったと言われている。

「降れば洪水、照ればかんばつ」の佐賀平野

水田が広がる佐賀平野は、米の生産が盛ん。上空から眺めると、田んぼと田んぼの間に水路が整備され、網の目のように広がっているのがよく分かる。地元でクリークと呼ばれるこの灌漑用水路、佐賀平野に古くから伝わる先人たちが残した偉大なる遺産である。

佐賀平野が面しているのは、最大6メートルという日本最大の干満差によって今も年に10メートルのペースで干潟を広げている有明海。平野と海の間は7メートルの堤防によってさえぎられているが、もしこの堤防がなければ、満潮時には平野の3分の1が海面下となる。そんな環境であるため、満潮時には自然排水が困難となり、少しの雨でも平野部は水浸しになる。そうかと言えば、山が浅く平野部が広い佐賀平野には十分な集水面積を持つ川がない。その上、平野を覆う土には保水力がないため普段は水不足に悩まされる。洪水と渇水は、佐賀平野の宿命であった。

こうした厳しい条件を解消するため、水が不足する平野に水を持ち込み、それをなるべく維持出来る容器が求められた。この容器こそがクリークである。容器が溜め池状にならなかったのは、洪水の時の排水路を兼ねたためである。平野全体で雨水や川の水を導き、貯留、配分し、排除するこの地方独特の水利用の仕組みは、近世初期には既にその原型が出来上がっていたというから驚きだ。

見上げれば、風に任せて空を舞うバルーンの群れ。田園風景に映える優雅な姿も、その田園を守るために限られた資源を有効に活用してきた先人たちの知恵と汗によって支えられていることを知れば、感慨もひとしおである。

撮影協力：吉島家緞通ミュージアム

郷土自慢・クラブ自慢

佐賀ライオンズクラブの郷土自慢は、国内最古の絨毯といわれる「鍋島緞通」。江戸中期に中国から製法が伝わり、鍋島藩への献上品として磨き上げられていく過程で、精緻で優美な敷物は芸術の域にまで高められた。もともとが藩主が使うもの、だからこれを持っているだけで由緒正しい家柄と見なされた。実はこの鍋島緞通、佐賀平野と深いかかわりがある。平野の一部はかつての干潟。これを干拓し新田として開発する際に、塩分に強い作物である綿花を植えた。この綿花から取れた木綿を羊毛の代わりに緞通の素材に使ったのだ。木綿の緞通は、高温多湿の日本の気候に向いていただけではなく、虫も食わない素材であるため100年はゆうに持つという。一生ものの絨毯である。

▼佐賀ライオンズクラブ（杉本澄夫会長／51人）＝1963年1月29日結成／スポンサー：福岡ライオンズクラブ

読者プレゼント

高知の「i-ppin」を5人に

「i-ppin」(50ページ)で紹介した「鰹のちちこ」の煮付けと「土佐はちきん地鶏」のレトルトカレー(1人前)のセットが、高知桜ライオンズクラブ(二宮邦江会長/39人)から5人の読者にプレゼントされます。

鰹のちちこ(心臓)は地元高知でも珍しい貴重な一品。土佐はちきん地鶏のチキンカレーは鶏の旨味と野菜の甘みが溶け込んだ深い味わいです。「はちきん」は土佐弁で元気で明るく活発な女性のこと。

応募要領:はがきに「高知の味」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は2月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

伝言板

●「クローズアップU50」(48ページ)では、50歳未満の若手会員を紹介しています。本欄に登場して頂ける会員を募集中。クラブで活躍されている若手のホープをご推薦ください。応募は推薦したい若手会員の氏名とクラブ名、簡単な紹介文、推薦者の氏名と連絡先を明記し、ライオン誌事務所へEメール(edit@thelion.jp)かFAX(03・3546・2630)でお送りください。

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■**クラブ・リポート**32〜41ページ:アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■**獅子吼**43〜47ページ:会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

送付先:
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax:03-3546-2630
E-mail:edit@thelion.jp

築地通信

●『ライオン』誌公式版は21カ国語34版が発行されている。国際本部版は昨年1月号から各国版から集めた記事を紹介する「LIONS ON LOCATION(LOL)」を新設。今月号THEMEはこのページの記事を中心に本部版からピックアップし翻訳した。学内ライオンズクラブや積極的な資金調達活動など、日本では新鮮に映る記事も多かったと思う。LOLには編集者の求めに応じて日本語版も記事を提供している。写真は本部版昨年2月号に掲載された青森県・鯵ケ沢ライオンズクラブによる高齢者宅の雪下ろし。(かわむら)

●訂正とお詫び

1月号21ページ上部写真のキャプションは、正しくはスクラッグス国際第1副会長でした。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

12・1 神奈川県川崎東 上杉 康之
12・17 東京町田クレイン 金子 安男
12・28 富山昭和 高田 順一

2010年3月号予告

THEME
木を植えるライオンズ

植樹は日本のライオンズが熱心に取り組んできたアクティビティの一つ。環境問題への意識が高まる中、地域の失われた森の再生や、子どもたちに環境意識を育てることを目的に植樹に取り組むクラブは多い。そんな活動の中から四つのクラブの取り組みを取材した。

編集室

改革の本質を探る

ライオン誌
日本語版委員長
◉
大島康男
（京都葵）

「未曾有の」「百年に一度の」厳しい環境の中、ライオンズクラブ国際協会は地球レベル、国際レベルでさまざまな活動を行っている。ここ日本においては数年来、会員の著しい減少が続いており、改革が求められている。

人は立場により作られる、と言われる。ライオンズクラブのメンバーであることの意義を考える時、自己啓発に精進し「社会に役立つ人間」でなければならないと思うのである。至極当たり前ではあるが、なかなか難しいことでもある。なぜならば、役立っているかどうかは自分で決めるものではないからだ。

ライオンズクラブそのものも同様である。社会からどのように評価されているかを考える時、ライオンズクラブは「目的」があるからこそ存在し、目的達成に向けてメンバーが一致協力して活動してこそ、社会的評価を受けるということを忘れてはならない。それによって言わずとも社会の共感を得、入会する人が増えるのではないだろうか。

世に言う「リストラクチャリング」は、未来に向け存続し続けるために時代に即応し、意識や組織の改革を行い、活性化し再構築することとされる。しかしながら、「いつか出来る」「誰かがやる」という先送りや他力本願では、その実現は成し得ない。メンバーが同じ意識の下、「今出来ること」「自分に出来ること」を意識して行動してこそ、成し得ることだと考える。

だとすれば、組織全体を活性化するためには、組織そのものを改革することよりも、むしろその中で活動するメンバーが同じ方向で意識改革するということが何より重要な改革への第一歩であろう。

同時に、これまで培ってきた伝統や特色も重要である。奉仕活動を行う数ある団体の中で、ライオンズクラブの活動には、いつの時代においても揺るぎない「ウィ・サーブ」のライオニズムがこもっていなければならないと思うのである。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

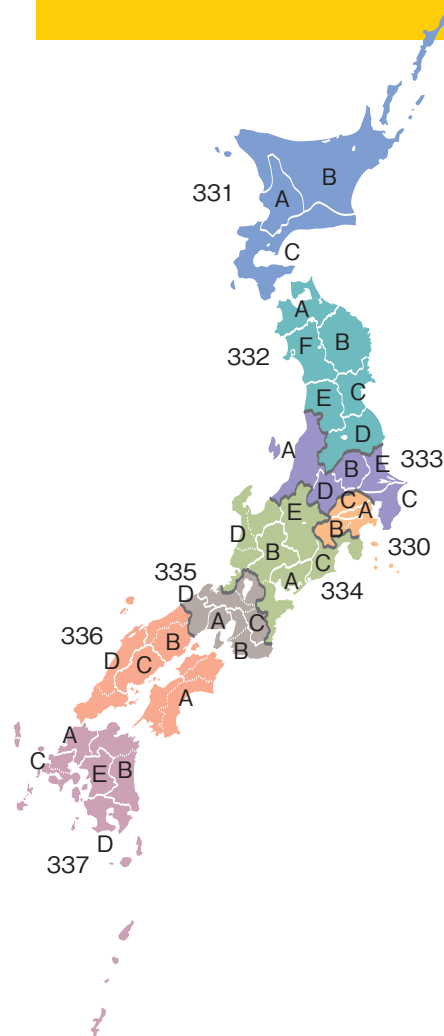
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2009.11.30　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	(女性会員)	期首からの入会	期首からの退会	期首からの増減
330-A	東京	200	5,510	(807)	226	156	70
330-B	神奈川·山梨·東京	181	5,209	(517)	214	200	14
330-C	埼玉	102	2,663	(240)	102	68	34
330	計	483	13,382	(1,564)	542	424	118
331-A	北海道(道央)	77	2,661	(185)	107	83	24
331-B	北海道(道北·道東)	90	2,607	(104)	89	71	18
331-C	北海道(道南)	59	1,878	(169)	95	59	36
331	計	226	7,146	(458)	291	213	78
332-A	青森	68	1,860	(151)	62	49	13
332-B	岩手	54	2,188	(561)	105	26	79
332-C	宮城	79	1,491	(97)	63	49	14
332-D	福島	77	2,068	(167)	77	50	27
332-E	山形	58	1,890	(169)	53	48	5
332-F	秋田	51	1,356	(202)	35	30	5
332	計	387	10,853	(1,347)	395	252	143
333-A	新潟	79	2,911	(209)	96	70	26
333-B	栃木	57	1,527	(352)	147	24	123
333-C	千葉	133	3,517	(523)	117	126	-9
333-D	群馬	57	2,113	(271)	69	95	-26
333-E	茨城	82	2,961	(278)	95	70	25
333	計	408	13,029	(1,633)	524	385	139
334-A	愛知	121	5,638	(502)	197	122	75
334-B	岐阜·三重	85	3,883	(314)	132	74	58
334-C	静岡	83	3,288	(76)	138	96	42
334-D	富山·石川·福井	99	4,151	(232)	150	101	49
334-E	長野	53	2,141	(157)	53	37	16
334	計	441	19,101	(1,281)	670	430	240
335-A	兵庫(東)	105	2,769	(386)	62	59	3
335-B	大阪·和歌山	198	6,270	(670)	184	181	3
335-C	滋賀·京都·奈良	121	4,227	(315)	155	107	48
335-D	兵庫(西)	67	2,149	(216)	71	44	27
335	計	491	15,415	(1,587)	472	391	81
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	155	5,934	(640)	221	191	30
336-B	鳥取·岡山	97	3,316	(258)	122	108	14
336-C	広島	104	3,833	(204)	134	95	39
336-D	島根·山口	102	3,354	(212)	156	117	39
336	計	458	16,437	(1,314)	633	511	122
337-A	福岡·長崎	117	4,627	(490)	191	100	91
337-B	大分·宮崎	79	2,454	(146)	110	70	40
337-C	佐賀·長崎	85	3,051	(402)	148	82	66
337-D	鹿児島·沖縄	82	2,521	(202)	164	112	52
337-E	熊本	56	1,640	(142)	63	44	19
337	計	419	14,293	(1,382)	676	408	268
総計		3,313	109,656	(10,566)	4,203	3,014	1,189
世界のライオンズの		7.2%	8.2%				

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.11.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,734
世界の会員数	1,330,104
期首からの増減	11,174

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,700	371,620	-2,341
インド	5,697	182,333	6,869
韓国	2,040	84,691	1,727

ライオン誌2月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 2010年(平成22年)1月20日発行 毎月1回20日発行 定価180円 送料実費76円 第52巻第8号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 共同印刷株式会社